明治四十年四月二十日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百九號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
內務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第貳百九號目次

大日本婦人衛生會

五月例會通知

來五月四日第一土曜日午後一時半より神田區一ッ橋通女子職業學校に於て例會を開き左の講話有之候萬障御操合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一演題未定　醫師　宮本仲君

明治四十年四月

私立大日本婦人衛生會

私立 大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を啓きたるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆率婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人の社會も漸く其の面目を改めんとするは既に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意が屆かざるものゝ如きことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講演談話を乞ひ互に相研究し併に之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞姉妹の爲めに盡すあらんとす茲に本會の旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸彦姉妹に告げ其贊成を仰ふぐことゝしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立 大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿一年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す[illegible]末に詳なり一入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會符は本會員に同じ[illegible]本會に於て特に賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に推出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず[illegible]

[illegible]

[illegible]することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
総裁 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島 榮子
副會長 濱尾 作子

（いろは順）

幹事 鳩山 春子
仝 羽川 [illegible]子
仝 [illegible]川 [illegible]子
仝 森木 かう子
仝 山木 多穂子
仝 松平 芳子
仝 三浦 敦子
評議員 石川 貞子
仝 岩下 ゆか子
仝 濱田 [illegible]子
仝 長谷川 仲子
仝 仁禮 [illegible]子
仝 四[illegible] 升子
仝 穂積 歌子
仝 土肥 多越子
仝 緒方 悦子
仝 岡山 としこ
仝 小川 [illegible]子
仝 男爵夫人 加藤 [illegible]子
仝 片山 [illegible]子
仝 吉武 [illegible]枝子
仝 丹波 貞子
仝 高橋 [illegible]子
仝 川村 [illegible]子
仝 子爵夫人 南部 [illegible]子
仝 中[illegible] [illegible]子
仝 子爵夫人 松井 正子
仝 岸 [illegible]子
仝 三宅 [illegible]子
仝 宮本 [illegible]子
仝 宮下 咲子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

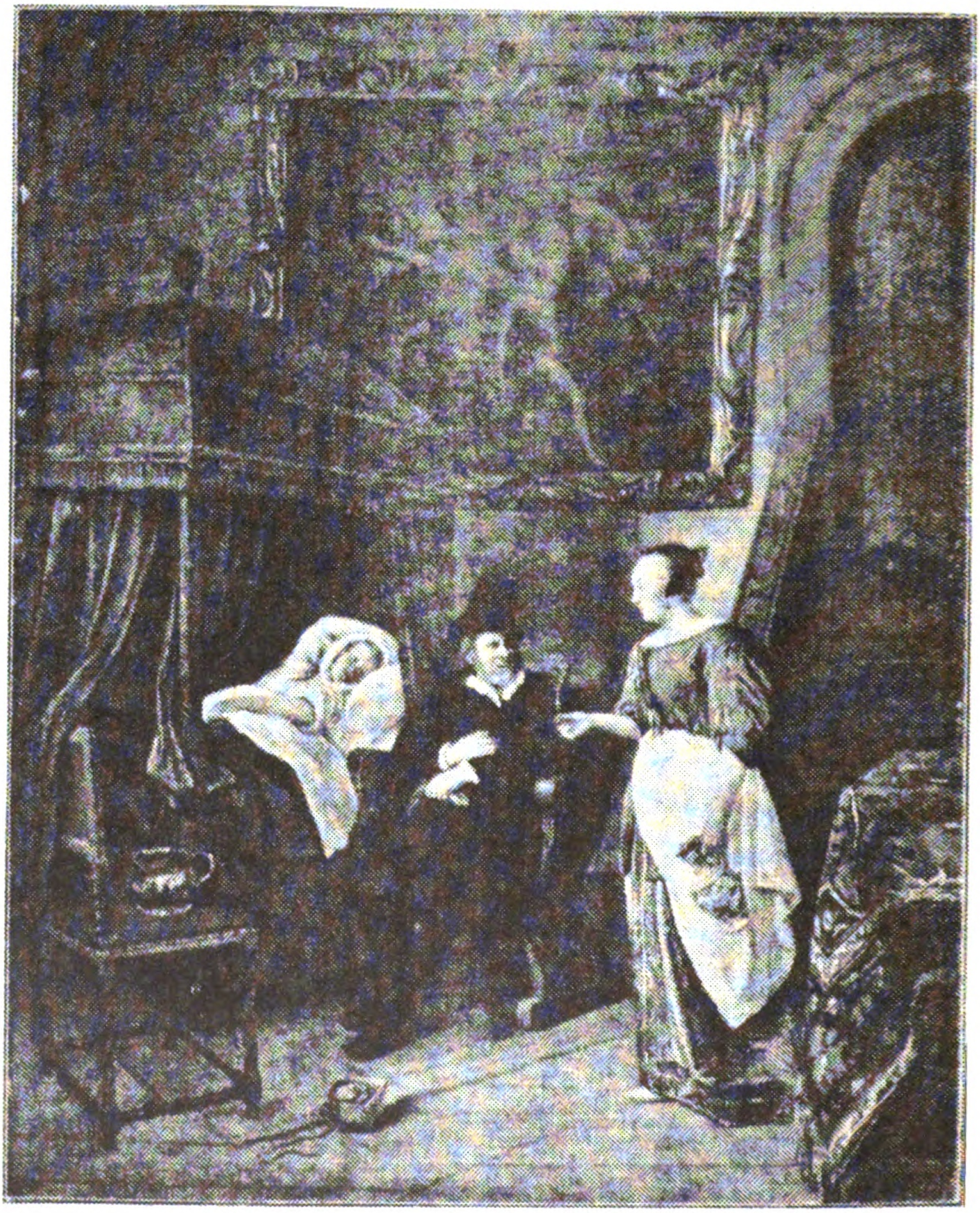
本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は助勢せられたる諸氏）

醫學博士 ●入澤 達吉君
理學博士 ●[illegible]島 [illegible]君
ドクトル ●[illegible]澤 [illegible]君
醫學博士 ●色川 [illegible]君
ドクトル ●伊東 [illegible]君
醫學博士 ●飯盛 [illegible]君
理學博士 ●伊藤 [illegible]君
醫學博士 ●石川 千代松君
[illegible] ●岩井 [illegible]君
醫學博士 ●石原 久君
醫學博士 ●石黒 [illegible]君
[illegible] ●[illegible] [illegible]君
貴族院議員 ●濱尾 新君
法學博士 ●濱田 [illegible]君
東京 ●穂山 [illegible]君
醫學博士 ●[illegible]原 [illegible]君
[illegible] 芳賀 [illegible]君
新潟 長谷川 [illegible]君
小兒科 長谷川 [illegible]君
醫學博士 ●小原 [illegible]君
醫學博士 ●岡田 [illegible]君
醫學博士 ●林 [illegible]君
[illegible] ●佐藤 [illegible]君
[illegible] ●[illegible]内 [illegible]君
[illegible] ●[illegible] [illegible]君
[illegible] ●[illegible]田 [illegible]君

醫學博士 ●大[illegible] [illegible]君
醫學博士 ●大[illegible] [illegible]君
[illegible] ●大澤 [illegible]君
醫學 ●[illegible]田 [illegible]君
一等軍醫 ●[illegible]杉 [illegible]君
男爵 ●若槻 [illegible]君
醫學博士 ●加藤 [illegible]君
[illegible] ●加[illegible] [illegible]君
[illegible] ●[illegible]本 [illegible]君
[illegible] ●[illegible]山 [illegible]君
[illegible] ●[illegible] [illegible]君
[illegible] ●[illegible] [illegible]君
[illegible] ●[illegible] [illegible]君
[illegible] ●[illegible] [illegible]君
[illegible] ●[illegible] [illegible]君
ドクトル ●高[illegible] [illegible]君
法學博士 ●高[illegible] [illegible]君
新[illegible] ●田代 [illegible]君
男爵 ●田代 [illegible]君
醫學博士 ●高[illegible] [illegible]君
醫學博士 ●竹田 [illegible]君
[illegible] ●高橋 [illegible]君
醫學博士 ●丹波 [illegible]君
[illegible] ●高橋 [illegible]君
醫學博士 ●高原 [illegible]君
醫學博士 ●田村 [illegible]君
醫學博士 ●[illegible]田 [illegible]君
醫學博士 ●久保 猪[illegible]君
二等軍醫正 ●米山 [illegible]君
醫學博士 ●[illegible]野 [illegible]君
三等軍醫正 ●宮本 [illegible]君
大日本[illegible] ●[illegible]井 [illegible]君
[illegible] 辻 [illegible]君
理學博士 ●坪井 正[illegible]君
醫學博士 ●[illegible] [illegible]君
男爵 [illegible] [illegible]君
[illegible] ●[illegible]井 [illegible]君
[illegible] [illegible] [illegible]君

[illegible]



醫師診察の圖　スチーン畫

講演

不姙症に就て

醫學士　佐藤得齋君講述

此度私は初めて此會へ御伺ひ致しましてございますが、先日田中さんから何か御話するやうにと云ふ仰せてございましたけれども、餘り突然でございまして何を御話して宜いかと云ふことも考へ付きませぬて、何か御註文があるならばそれに依て話うと御願致した所が、別に註文と云ふこともない單に私は婦人科の專門であるから婦人の病氣に付て御話するやうにと云ふことでございましたから、先づ取敢えず婦人病に就てと云ふ誠にぼんやりした何でも宜しいやうな題を掲げてありますが、婦人病に就ても取り止めもない御話て、何を捉へて御話して宜いか、此病氣に就て名前を一々並べて、仕舞ふばかりに一時間位經つて仕舞ふだらうと思ふ、私は婦人病の範圍內に於て一つ何か御話を致したい積りてあります。

今日持つて參りましたのは色々の婦人病に關係もございますし、又多少開業して居りまして皆さんからの訴へを伺つて見て成程餘り少くない病氣でもあり、且つ一應皆さんに御心得を願つたならば吾々の職務上好都合てあらうと云ふ考へて此題を改正しまして「不姙症に就て」と云ふ題に致します。

皆さんも御承知の通り夫婦の間に御子さんが無かつたならば必ず其人の一生涯と云ふものは實に無味乾燥のものてあらうと思ひます、デ御隣りから御隣りに御子さんのある御宅と御子さんのない御宅と比較して見ると、一方は非常に陽氣である、一方は大變に陰氣であると云ふことを以ても御子さんと云ふも

のは實に人生の生活する上に於ても、亦事業を勵む上に於ても缺くべからざるものであらうと思ひます、そこで此御子さんの有無と云ふものは、總てさう云ふ點に於て必要であるばかりでなしに、若も御子さんが無かつたならば其家の血統が絕へると云ふ、マア昔から日本などでは實に尊重して居るものであるから尙更あるとないとの關係は非常の違ひであらうと思ひます、デ其御子さんに就て、所謂夫婦の間に一生御子さんが出來なかつたと云ふ、此病氣と云ふものはどれだけ世の中に澤山あるものであるか、若も例へば千對の夫婦の中に一人とか、或は萬對の中に一人と云ふ工合に、極く稀れにあると云ふやうなものであればそれ程必要ではないのであります、日本ではそれ程の統計はございませぬけれども、西洋の統計を見ますれば、先づ十夫婦に一人と云ふことであります、故に日本の四千萬の御方が半分々々に、男が二千萬女が二千萬として、さうして他日一對の夫婦が出來たものと假定したならば、其十分の一即ち二百萬の御子さんの無い方がある譯て、吾々專門醫としては不姙症に就て充分研究しなければならぬ問題であります、而して其昔から石婦とか何とか言つてございますが、其不姙症の婦人に付て吾々が今日まで治療致した結果がどうであるかと云ふと、或場合に於ては決してお治りにならない病氣もございますけれども、(尤も其中でどれ程の癒り得る病氣があるかと云ふことは今日不明でありますけれども)、吾々の先輩から聞いたこと、自分が僅かの時間の間に經驗して見ても世の所謂不姙者と云ふ方の內で隨分姙娠なさる方があるやうであります、斯く多數の不姙者があるけれども其內可なり多數は治療の結果姙娠なさると云ふことは本問題の價値て、又今日皆さんに御聽きを願つた次第であります、そこで今後若も御子さんが無い方にお遇ひになつたならばそれは決して嘆ずべきものでない、或方法に依ては癒ることが出來ると云ふことをお知せして頂けば、それが爲め一人の不幸な方を御助けする

ことが出來ると云ふので今日此處に是を持つて參りました、是は Sterilität. Kindeslosigkeit 斯う云ふやうなものを不姙症と譯したのてあります、不姙症の定義を申しまするると、詰り後繼になるべき者を生殖する機能の缺乏した場合てある、男子てあり、或は婦人であるに拘はらず詰り後繼になるべき人を造る機能が缺乏して居つた場合を言ふのてある、さうてありますから婦人てあつたならば後繼を造ることの出來ない、詰り卵を造ることも出來ない場合もあるだらうし、又出來てもそれを發育せしむる機能の完全して居らぬ場合もあるだろう、又男子てあつたならは婦人の卵をして受胎せしむる働きのない男子てあれば、其人は御子さんの無いんてあると云ふことが出來る、御婦人てあつたならば受胎させ得るやうな卵を造ることが出來ない、或は普通の卵は出來るけれども、之を受胎して發育せしむる場所に持つて來ることが出來ない、或はそれを其場所に持つて來ても之を完全に發育して尙ほ生活を續けしむると云ふことの働きの出來ない場合、斯う云ふ場合は御婦人には御子さんがないと云つて宜いのてあります、それてありますから若も不姙症と云ふ訴へを吾々が聞いたならば、必ず御子さんのない男子のみを診察して其原因を確めることは出來ない、又御子さんのない婦人のみを診察しても分らない、必ず御子さんのない夫婦を兩方診察しなければ其原因を確めることは出來ない、又是は學問上から言つた話でありますが、通俗に言ひまするると例へば姙娠は爲さるけれども、幾ら姙娠をしても必ず流産を爲さる、さうすると云ふと詰り其人は御子さんのない方の部類に入る、或は一度姙娠して十ヶ月で御産を爲すつて其御子さんが不幸にして死くなつた、其後御子さんが出來なかつたと云ふものは御子さんのない部類に入らなければなりませぬ、併し實際生殖力と云ふものが有るか無いかと云ふ點を考へて見ると生殖力は有つた方である、分娩も爲すつた方である、所が不幸にして中途てお生れなすつたとか、十ケ月てお生

れなずつても生活して往くことが出來なかつた、或病氣の爲に死くなつたゞけて、學問上から所謂不姙娠と云ふことは出來ないのであります、デ吾々が此處に不姙娠――御子さんがないと云ふことに付て言ひますのは、全く受胎する力のない夫婦に付て言ふのである、そこて是だけを御話致しますならば皆さんも既に御承知でございませうが、不姙症と云ふものは決して罪が御婦人にばかりあるのでなくして、必ず男子も其原因の半分は負擔しなければならぬものであらうと思ふ、而も其原因を澤山調べて見ますると却て不姙の原因が男子に多くあると云ふ場合が少くはないのであります、歐洲の統計を見ますると、ケーレルと云ふ人は九十六對の夫婦の中て二十六對が精蟲がなかつた、又リールアッセルと云ふ二人の調べては百三十二對の夫婦の中で四十二回は精蟲を發見することが出來なかつた、恰度百人の%を探つて見ると三十%位てある、詰り不姙症の約三分の一位は其罪男子にあると云ふことが分つたのてあります、是は唯精蟲を發見することが出來なかつたと云ふだけて、其外に何か他の疾病、或は全身的機能と云ふやうなものを加へたならば恐らくは半分以上の原因を男子が負擔するやうになるだらう、所が日本ては昔から習慣として御子さんのない時には其罪と云ふものは直ちに婦人にあるが如くに考へて、さうして從つて御子さんのない原因を確める爲に吾々の處にお出てになる方も隨分澤山ある、御子さんのない婦人と云ふものは正當に離別し得るものとなして、孔子樣の七去の中にも數へてある位てある、是は實に不都合てあつて、今日から見ると甚だ理窟に合はないことてあらうと思ふ、私是れに付てチヨツと考へ浮んだのは、罪が男子にあつて、さうして離別された婦人を私は一人知つて居ります、それは私が大學の助手を奉職して居ります時分に、外來に通つて居つたお方が御子さんがないと云ふ、それから始終診察して見た所が膀胱加答兒、輕度の子宮内膜炎と云ふものてありまして、さうして治療して居

る間に急に熱が出て、大變にお腹が痛い、それから病室に連れて行つて能く診察した所が、右の方の卵巣が大變痛んで居る、それから直ぐに入院を命じて種々療治をして行くうちに、能く見ると云ふと右の方の卵巣が化膿して居る、是は斯うしては居られない、直ぐお腹を切つて手術をした、それて右の方の化膿したのは全部取つて仕舞ひまして、それから左の方の卵巣を見ると、矢張其方も少しく化膿して居る部分が見ゆる、若もそれを取つて仕舞つたならば此お方には御子さんが無くなつて仕舞ふ、併ながらこれを殘して置いたならば矢張ドン／＼熱が出て來てドーセ他日取らなければならぬことになつて仕舞ふ、然らば吾々が今手術を爲ないで其儘殘して置くか、或は又今後御子さんがなくとも取り去た者てあるかと云ふことを考へて見ると、殘した所御子さんが出來るか出來ないか分らぬ話であるから當人をお助けした方が宜からうと云ふことて兩方の卵巣を取つて仕舞つたのてあります、卵巣を取つて仕舞つたと云へは、既に此方には御子さんが出來ないから、これを若も親戚夫たる者が知つたならば、何かそこに妙な面白くない事が起りはしないかと、其事に付ては御話をしなかつた、所が頻りに其點に付て聞きに來るから、其卵巣は實は一方は取つて仕舞たが一方は殘してあると嘘言を言つて話て居つた、所が或時に大學の醫科の學生を以て聞きに寄越した、それは多分兩方取つたたらうと云ふ疑ひが晴れない、内々知合同士て聞いたならば話して呉れるだらうと云ふやうな考へて其人が來られた、それからさうまても言つて來たものを何時までも隱して置く譯には參りませぬから、君だけには話してやるが、君の考へて話して呉れるとも話さないて呉れるともそれは君の考に任せるから、實は兩方取つて仕舞つたと云つたから其人は歸つて旦那に話した、遂に其夫人は離別されたと云ふことてありました、其病氣の原因は何にあるかと云へば恐らくは吾々の考へては旦那の痳病が夫人に感染して化膿して來たのてある、さう

しまするとその罪は旦那にある、然るに夫人にあるが如くに遂に離別されたのであります、今日開けて居る時代に於てもさう云ふやうな場合があり得るのでありますから、尚更此點に付ては充分聽いて戴きたいと思ひます。

然らば此夫婦間に御子さんのない原因は澤山あるであらうけれども、何れの場合でも吾々がそれを發見し得るか、又それを發見して何れの場合でも之を救ひ得るものであるかと云ふと、情けない事には今日充分之を發見することも出來ない、從つて之を救ふと云ふことも出來ないのであります、唯健全なる精蟲と健全なる卵と出合つた時には生殖し得る小供の芽が生へると云ふことは分つて居りますが、人間の成立と云ふことに付ては、是は天與の秘密であつて**迚も吾々俗人の腦髓を以ては解釋することは出來な**いのであります、だから健全の精蟲と卵の會合、それから普通健全なる子宮に於ける發育狀態を明かにしなければ、何れの場合を問はず夫婦間に御子さんのないと云ふ原因を總て明かにもならぬ、又スッカリ除いて仕舞ふと云ふことは出來ないのであります、然るに此受胎した卵の發生の模樣、詰り胎内の生活の模樣、發育の狀態と云ふことは今日では不明である、それで吾々の最も助けになるものは動物試驗に於て之を見る、受胎して凡そ何時間何週間であると云ふことを見てそれから動物を殺して解剖して顯微鏡にかけて見た結果は斯うであると云ふ所から、恐らくは人間もさうであらうと云ふのであります、若も受胎した方が他の病氣で偶然に死くなつた、さう云ふやうな方でもあつたならば其人間に付て調べることも出來ますけれども、其以外の事は人間の生命を絶たなければ出來ないのでありますから、先づ精蟲が婦人の胎内に這入つて何十日間生活**を續けて居ることが出來るものか、或は卵が卵巣か**ら飛出して後にどれだけの時間、或は何日の間生きて居るかと云ふことは今日分つて居らぬのであります、從つて此生殖と云ふ秘密は明かになつて居らぬ

のであります、唯是まで先輩者が種々苦心の結果發見された事實、或は動物試驗の助けに依て我々が想像し得る範圍中に於て今日御紹介するに止まつて居ります。

先づ受胎の二つの要素である所の精蟲と卵の單獨の病氣に付て最初に申上げます、デ精蟲と云ふものは精液の中に無數に居るものであつて、さうして其精蟲が胎内に居る時のやうな適度の溫度を保ち、又生命を奪はない條件の下に之を顯微鏡で見ますると非常に發潑の運動をして居る、迚もどう云ふ種類の運動をやつて居るかと云ふことは見ることが出來ない程に非常な活潑の運動をして居ります、然るに其精液の中に精蟲の一疋も見ることが出來ない、或は顯微鏡下に吾々が見ることが出來るやうな弱い運動であるならば其精蟲が病氣に罹つたと云ふことが出來ます、デ此精蟲のないと云ふことは、男子の生殖不能の一で大變に注意をしなければならぬ病氣である、而も前に統計て示した如くに不姙夫婦の約三分の一は無精蟲であると云ふことを以て見ても吾々の大切な題目であるだらうと思ふ、其原因は色々ありますけれど、先づ過淫及び花柳病の結果斯う云ふことを來すものが最も多いやうです、それから卵の病氣に付ては今日では十分調べて居らないのであります、併し恐らくは卵と云ふものは別に病氣と云ふものはないであらう、多分は病氣に罹るのではないであらう、大抵一旦形成した以上は必ず受胎機能と云ふものは有つて居るやうに思はれる、何故かと云ふと生殖器の結核性の病氣に罹り居る場合、或は癌腫のやうな病氣に罹つて居る場合も矢張姙娠することが出來るし、矢張滿足に分娩することが出來ると云ふことを考へて見ても多分は受胎力に別に變らないものであらう、それから次に必要なのは、其卵と精虫と出合つて受胎する時期と云ふは何時であらうか、是は隨分大切な問題であると思ふ、それで其時期が確められなかつたならば、詰り交接の時期を撰むと云ふことに大變な關係を有つて居ります、吾々

の方では月經に依て勘定を致します、月經からドレ位まで卵が生きて居るとか、或は何の位經つたならば卵が發見せられなかつたと云ふことを以て眼目として居りますが、今日までの研究に依ると、月經と月經の間何れの時でも受胎することが出來るやうであります、詰り今度の月經の卵が受胎するか、或は此以前の月經の卵が受胎するか、是は種々說がありまして各々勝手なことを言つて居りますが、今日では確かに分つては居りませぬけれども、月經後何日經つても受胎し得ると云ふことは分つて居りますが、併し統計上最も多く受胎する時期は月經以前二三日、月經の濟んで一週間の間、是が最も受胎した數の多い場合である、是だけしか今日では分つて居りませぬ、それから是れで卵と精蟲の病氣とそれに次て受孕すべき時期と云ふことを御話しましたから、今度は一つ〳〵婦人病に亘つて御話しやうと思ひます。

一體前にも御話した通り不姙症の原因に付ては男子の方の缺點も數へて御話すると完全なものが出來ますが、今日は御婦人の會でございますから殊に其方を省いて婦人の方に付ての病氣の御話をします。

（イ）精液に關する障害

精液の這入るのを妨げられるとか、或は妨げられないとか云ふ場合で先づ

（一）精液の浸入に對する機械的障害

を御話致します第一に陰門及膣孔閉塞と云ふことがございまして、是は先天的畸形の中に入る方であります、陰門も無し膣孔も塞つて居る、さう云ふやうな者は姙娠の方から言つて見ると絕對に姙娠はしないのであります、後天的に所謂或病氣の爲に或は手術した爲に膣口全部が塞つて仕舞つた場合も是は矢張精液の浸入を妨げる絕對的の障害を爲す、或は陰門の異常に後方に在る場合、或は極く短い場合、又非常に弛緩して居つて廣くなつて居る場合も生殖を妨げる、それから第二には陰核及小陰唇の異常に肥大なる場合、象皮病の如きは然り之は日本では九州

の方に多いやうでありますが、茨城の方からもお出てになつたこともありました、(元來此病氣は熱帶地方に多い)、斯う云ふ病氣になると陰核或は陰唇の非常に大きくなつて交接を妨げる、其結果精液の浸入を妨げると云ふことがある、又それと同じやうに外陰部に何か大きな腫物が出來て膣口が塞つて仕舞ふと云ふやうな場合も是と同じであります、第三には處女膜の閉塞で、處女膜が非常に厚くて破れない場合、是は全閉塞と不全閉塞と云ふがありますが、全體に閉塞せられて居る場合は勿論絶對に姙娠はしない譯であります、併し不全閉塞でありまして極く僅かな孔があつたときは受胎しないものであるかと云へばさうでない、或場合に於ては極く小さな孔があつてそれが破れずに居つて受胎した場合もあります、之に付て私は一人面白い場合を見たことがありましたが、其人は二十二三歳位で或家に使はれて居りましたが、其主人の媒介で縁付いたけれども交接不能と云ふことを以て夫なる人から離縁された故又主人の家で預つて居つた、或時に離別されてから四、五箇月經つて湯殿で轉んだ所が、急に出血を起して來た、それで其近傍の醫師に診察して貰つた所是は流産だと云ふた、イヤ流産する筈はない交接不能と云ふて離縁されたのだからと云ふて疑つた、所が醫師の言ふには確かに流産だそれには立派な證據があると云ふた、所が今度は其處の家には居ないで自分の親戚に預けられた、其時になつて私が初めて診察した、所が膣口が一指入れる位しか開いて居らない、さうして診察して見ました所がどうも子宮が大きいのか胎兒が殘つて居るのか、或は後産のやうなものでも殘つて居るのかサッパリ分らない、さうして大變熱が出て排泄物に臭氣もある、然し之れ丈けでは充分に分らぬ、チヨイと指に觸れたものがあるから徐かに取つて見ました所が小兒の頭の軟かい骨が出て來た成程確かに分娩であつたに違ひない、それから主人に流産をしたに違ひないと云ふことを話しました、流産をしたがそれは多分小兒がお腹の中で死

んで仕舞つて、さうして腐つてバラ〱になつて骨でも何でも出て仕舞つたに違ひない、其爲に臭氣を起し熱も起つたのであります、膣口が一指入れる位しか開いて居りませぬから、そこで私は自分の宅へ入院させまして是れでは嫁入が出來ないから膣口を大きくしてやらうと云つて手術をしまして膣口を大きくし精細に診察して見ますると子宮が二つある（圖を示す）どつちの方に妊娠したか分らぬけれども確かに子宮が二つある、さうして見ますると此人は内部の生殖器に畸形があるばかりでなしに外部に於ても畸形があつたのであります、是は膣口が狹くても姙娠し得るものであると云ふ證據である、それから今の續きで第四には膣の痙攣、尿道息肉と云ふやうな場合も交接を妨げるものであります、それはどう云ふ爲であるかと言へば、膣の痙攣と云ふものは、チッと觸れても直ぐに收縮を起し痙攣を起して非常に痛みを感ずるのであります、是は能く吾々の方にお出でになる方もありますが、それも交接が出來ないと云ふ爲に必竟其結果が精蟲の這入らないと云ふことになりますから是も精液に關する障害と云つても宜しいのであります。

それから第五に子宮の全缺、即ち子宮が全然缺乏して居り、或は子宮口が塞つて居り、或は又子宮の極く下方にある部分（子宮膣部）の缺乏して居る場合、或は形が變つて居る場合、子宮口の極く小さい場合、それから子宮頸部が狹き場合、或は頸部の近くに、腫物が出來て之を壓迫するときも妨げとなります、それから膣部に糜爛のある時、子宮口に腫瘍がブラ下り子宮口を塞ぐ爲に妨げとなることもあります、それから子宮の轉位、即ち位置の變つて居る場合で、此時は前屈でも後屈でも烈しい爲めに膣壁で子宮口を全部塞いで仕舞ふやうにピッタリ密接して居る時は精液の浸入を妨げる、即ち前屈で非常に前に曲つて居る場合には子宮頸部で急に非常に曲つて仕舞つたのでありますから、急に曲つて居る所で頸部の孔はまるで塞つて仕舞ふ、それが爲に精液が入つても

内部に浸入することが出來ない、斯う云ふ場合に一人妊娠爲すつた方がございますが、其人の子宮は恰度前屈のヒドイ場合でありました、孔が爛れて居ると云ふでもなく唯それだけで妊娠しなかつた、それが結婚して凡そ八年位であります、旦那もお相撲さんのやうに肥つて大きい方でありました、御家内も普通の方よりも大きい方で別段病氣と云ふこともない、それにどうしてもお子さんが出來ない、それで私がマア倦きるまで氣長く遊び半分に通ひなさいと云ふて通はせました、それでどう云ふ療治をしたかと云ふと何もしない、別に藥を付ける譯でもなし、只頸管擴張器を以て子宮頸管を廣げてやつた、約一箇月通つて居る中に妊娠して丁度先月二十日に女のお子さんが出來ました、斯う云ふ場合に浸入は妨げますけれども決して病氣が別に無かつたならば妊娠し得るものである、是まで御話したのは、總て精液の浸入に絕對的の障害を爲すものではないけれども非常に之を困難ならしむるものである、それから其他今御話した頸管の狹窄、或は全く塞つて居る時も精蟲の浸入を妨げる、又閉塞と云ふ場合には生殖器畸形の爲に起ることもある、又或病氣を起してそれの癒りきはに周圍にくつ付いたと云ふ爲に起ることもある、それから段々歳を老ると從つて生殖器の必要が無くなり、それが萎縮する時、それから内膜炎とか、喇叭管の加答兒とか云ふやうに病氣の時、又た子宮内に腫物が出來て道を閉ぢられた樣な色々な場合は精蟲の進入を妨げます、それから或人は精神の感動に依て精蟲が子宮に這入ることを妨げることもあると云つて居る、是は機械的の障害である。

（二）精液受孕機能の化學的障害

化學的障害と云ふのは膣に存在する所の液は酸性の反應を呈して居る、其分泌物の量とか、或は外形に於て障りはなくとも酸性の液と云ふものは精蟲の運動を速に減じ、或は全く運動を止めて仕舞ふ、さう云ふ時には能く膣内をアルカリ性の液で洗滌して其處に存在して居る酸を調和して仕舞ふ、又是と同じ

やうに外部から膣内に入れた者、例へば洗滌液とか塗藥とか坐藥とか云ふものにして酸性の作用があつた場合には同じやうに妨げる、それであるから之を調和するには食鹽の液とか重曹とか、或は極く弱く稀釋した苛性曹達と云ふやうなもので洗滌すると中和して仕舞ふ、其他外陰部に於ける焮衝或は子宮の加答兒とか化濃性、或は加答兒性の焮衝、尙ほ深く這入つて行けば、膣加答兒もあり、子宮内膜炎とか、喇叭管の加答兒、或は卵巢炎と云ふやうな工合に種々な現象を起した場合には精蟲の浸入に影響を與へるものであります、是れて精蟲に對する機械的障害と、化學的障害が了りました。

口)卵に關する障害

第一に受胎の出來るか出來ないかと云ふ時に必要なのは卵巢に於ける卵が完全に成熟したるや否やと云ふことが第一番の問題てある、デ卵の發育を妨げる所の卵巢の種々の病氣と云ふものが、若も一方だけにあつた場合には一方健全てあるから受胎するにさして影響はないが、若し兩方に起つた場合には不妊娠症を起して來る、例へば卵巢の欠損、又は委縮、卵巢に何か腫物が出來たとか、或は卵巢炎を起したと云ふ場合は此内に入る、それから第二には成熟して仕舞つた卵が卵巢から飛出し、次にその飛出した卵が喇叭管から拾ひ上げらるゝかどうかと云ふことが必要である、若も飛出す時に其近傍に故障があつて、即ち卵を包む皮が厚かつたか、又は腹膜炎等の爲めに假膜て被はれて居つた、やうな場合には受胎することは出來ないのてあります、それから又一旦幸にして卵が出て仕舞つたけれどもそれが喇叭管に這入ることが出來ないと云ふのは、其喇叭管の一番端の剪綵と云ふものに故障があつて喇叭管口を塞いて仕舞つた爲てある、例へば他の部分と全くくつ付いて仕舞つて閉ぢられた、或は又塞がつては居らぬけれども非常に狹い爲に這入り得なかつたと云ふやうな時、或は其周圍に腫物の出來た爲に抑え付けられて妨げられると云ふ場合も受胎は出來ないのてあ

ります、第三には喇叭管加答見性、或は化膿性の炎衝、又其近傍に於ける何か病氣の爲に癒着を起したと云ふのは總て卵と精蟲との會合を妨げるのであつて、詰り卵の方に屬する障害である、斯う云ふやうな障害が若も一旦精蟲が子宮を通り喇叭管を通つて仕舞つた後に起つたと云ふ時は子宮外姙娠と云ふことが形成される、第四受胎した卵は喇叭管を通つて幸に子宮内に這入つて發育すると立派なお子さんが出來ると云ふ場合に臨んで、若も其發育を妨げると云ふ場合があつた時には之れも不姙症の原因になる、例へば慢性の子宮實質炎又は内膜炎のやうな其處か病氣に罹つて居るものであつたならば胎兒の營養を妨げられて胎兒が途中で死亡し遂に流産して仕舞ひます、是は卵に關する障害である、是れて卵と精蟲に對する障害は了りました。

（八）體質と不姙症との關係

若しも婦人、或は男子でも宜しうございますが營養不良であるか、或は全身病の爲に受胎に影響するとか云ふことに付ては、確かには答へは出來ない、併し多くの場合に於ては是が爲に子宮が段々小さくなるか、或は卵の成熟するに付ての障害を起して來て大抵は姙娠しないとか、又は姙娠しても流産して仕舞ふとか云ふことが多い、例へば窒扶斯とか虎列剌のやうな急性の傳染病、或は糖尿病とか、腎臟病とか云ふやうな方に御子さんの無いのは此全身病の爲に起つた所の不姙症と云つても宜しい、其他に肺病であるとか、心臟病或は硫黄病又は高度の貧血を起した場合には此部に屬する又た大變に肥つて居られる方も屢々御子さんの無い方がある、それから腦病、精神病も屢々不姙症を來す、又飲酒の量の多い場合、非常に瘦せた方、營養の不良なる方、生活の狀態に就ては大變に勞働爲される人とか、或は運動の少ない人とか云ふ人は不姙症を起すことがあります、また月經と生殖と云ふことに付ては最も密接の關係を有つて居りまして、月經が生殖年齡に達しても無かつたと云ふ場合にはお子さんがお出來になら

ないと云ふ大切なものであります、若も月經不順てあるとか、或は月經が非常に弱いとか、或は其時に大變痛みがあるとか云ふ場合の方には不姙の方が多い、此異常を起すと云ふのは詰り生殖器の病氣があるからてある、斯う云ふ場合に於ては其病氣を除かない限りは不姙症になり易い然し全身病に基因せぬかは大に注意を要することてある又た精神的に交接時に少も快感を起さぬか將た疼痛を感ずる時は不姙が多い殊に接觸を拒み或は夫婦和合して居らぬとか云ふ場合も此部類に這入つて居りますけれども、是は學問上から餘り價値のないものてあります。房事過度及び嘗て手淫を行へる方も不姙の原因となることが多い又少し注意して置きたいのは血族結婚と云ふものも不姙症を發することが多い、又夫婦年齢の非常に相違した場合も亦不姙症が多い、是れて大體の原因は御話しましたが、是から追々それ等の御病氣に付てどうすれば癒るものてあると云ふやうなことを御話致しませう。

療法

是まて御話した如くに不姙症の原因と云ふものは大變ある、從つて其療治法も澤山あるけれども、先づ先天的畸形と云ふやうな場合て、之が若も幸に手術の結果之を除くことが出來るやうな場合なれば兎に角、左もなければ其時は望みがないと云つて宜しいのてある、デ其他の病氣に付てはそれが爲に姙娠を妨げられて居ると云ふことてあれば確かに其病氣を癒せば姙娠しなければなりませぬ、例へば子宮內膜炎と云ふやうなものがあつて、それが爲に妨げられ、其他の原因はなかつたと云ふ時はそれを癒して仕舞へば必ず姙娠なさるのてあります、是にも一例を持て居ります、其方は昨年手術をしまして直ぐ姙娠しました、此方は二回姙娠すつたのてあります、二番目の御子さんが死くなられた、それからどうしても御出來なさらないそれを診察した所が、極く輕い內膜炎を起したのてある、それは消毒が十分てなかつた爲に起つたのか又は月經時に注意が屆かなか

つた爲てしよう、之に搔爬術を行て後凡そ三箇月ばかり經つてから姙娠しまして今月は六月になります、それから若も子宮が位置を變じて居るか、或は屈り過ぎて居るとか云ふ爲に生殖を妨げられて居る場合は其位置を元の通りにしてやるとか、或は花柳病に感染したと云ふやうなことがあつた場合には、其病毒が深く入らない樣に治療してやるとか、それから處女膜の破れないと云ふ場合は切りさへすれば差支ない、それから最も困るのは卵巢の腫物であります、それを全部取つて仕舞へば御子さんが無くなりますか或場合には止むを得ず取らなければならぬことがあります、此場合には病氣を除いて却て御子さんが無くなるのですそれから全身病があつて不姙症を起した場合は其病氣に付て治療をする、例へば肺病とか心臟病とか、是等は皆相當の專門家に御願する、唯困るのは肺病とか腎臟病とかは先づ不治の病氣でありますから是だけは遺憾なことであります、それから全體の營養の不充分の方は充分に營養分を取つて、規則正しい生活をやり、又規則的の運動をやつて一體の體力を養へば姙娠するのであります、それから自分からして不養生の爲に不姙症の原因を爲した場合、酒を飲むとか或は房事過度、又は血族結婚とか年齡の相違した結婚とか云ふことは自分から避け得ることが出來るから成べくお避けになつた方が宜しい、唯其他に於て困難を感ずるのは、吾々が勿論專門家として熟練して居る手腕を以て、其病氣の在る所を定め得ることの出來る場合は之を療治出來ますけれども、今日行つて居る所の檢査法に依ては其障害を起して居る場所が何處であるか、或はドレだけの障害があるかと云ふことは實際に分らぬことがありますデあるから、從つて其障害が分らないだけそれだけ治療と云ふものも出來ないのであります、例へば喇叭管に慢性の病氣があつて、さうして其處等に幾分か殘り物があると云ふやうな場合は確かに精蟲と卵の會合を妨げるには違ひないけれども、それを吾々の手指を以て觸れ知り得るかと云ふ

ことは甚だ疑問なのである、隨分熟練家の大家でも分らぬことが多いのであります此場合は醫者が見て何ともない樣だが、扨て姙娠はしない、甚だ以て困た次第である、然し世の中には殺す神あれば助くる神ある樣に我々にも幸に斯う云ふやうな場合に遭遇した時には、其御婦人に溫泉にお出でになつて戴く、さうすると云ふと溫泉にある所の空氣の新鮮なるものとか、或は御自分で注意して多少の運動を爲さるとか、或は溫泉の働きに依つて活潑なる新陳代謝が行はれて、さうして此古い病氣の痕と云ふものは吸收されて無くなつて來るのであります、殊に溫泉の器械的作用即ち下腹の動搖、溫蒸氣の震盪及び有力なる刺戟は能く吸收機能を增進する事である、ですから能く御話を伺ふのは、彼の人は溫泉にお出でになつてお歸りになつてから御子さんが出來たと云ふことを伺ひますが、さう云ふ場合に醫者にかゝれば確かな障害が分らないそれが、溫泉に行かれて總ての新陳代謝が盛んになつて病毒を吸收して、さうして御子さんが出來るのであります、それと同時に出來得るならば外國のマツサージをやると大抵はお癒りになるものである、全身虛弱の方であつたならば海水浴に行つて全體の身體を丈夫に爲さるか宜しい、茲に一つ方法が殘つて居るのは、子宮の頸管が極く狹くて、先程御話したやうに頸管擴張器と云ふやうな者で少しづゝ廣げて上げて姙娠が出來た場合であるが、それでも尙姙娠しなかつた場合には茲にシムスと云ふ人の人工姙娠法と云ふ方法が殘て居る、之は交接した後は精液を取つて注射器を以て子宮內に注射してやる、さうするとシムス君の說に依ると姙娠が出來るものであると云ふことであります、之も諸先輩に伺つて見たが此方法はマダ經驗されたと云ふ御話も伺ひませぬけれども、果して出來ることであるとすれば大變結構であります。

其他交接時の位置とか、或は交接後に於ける婦人の位置と云ふことも大切でありますけれとも、是は各婦人の子宮の位置は何れの方へ癒着して居るかと又

は前後に届て居ると云ふやうに各々の位置に依て工合を異にしなければなりませぬから是は省いて置くことにします、詰り婦人病のある方は御病氣を取除いてお仕舞ひになつたならば必ずや姙娠しなければならぬことに歸着するのであります、併し婦人病のおありにならない方で姙娠しない方は、必ず先づ男子の方を充分に調べて戴いて、さうして原因を確めないと詰らないのであります、甚だ詰らぬ御話でありましたが今日は是だけで御免を蒙ります。(完)

叢談

小兒の睡眠

醫學士　ふ、わ、子

(一)　小兒の睡眠時間

假りに老練で經驗に富んだ醫士に向つて「小供が眠られないがために是非共催眠劑を處方らねばならない場合は多いものか何うか」ときいたとすれば、醫士は定めて「そんな場合に遭遇したことは一回も無い」と答へることでせう。實に睡眠は小兒に向て貴重なる財産で、これを盗まれることの少ないのは幸福至極のことゝ云はねばなりません。

呱々たる勇ましい初聲を上げて一家のうちへ賑はいと希望と幸福とを齎らした天の使の樣な嬰兒は、初湯のあとで暖かにさへされてゐればスヤ〳〵と熟睡して、遠きあの世の潔き夢を見てゐるもので、寒いとか飢じいとか云ふ不快なる感じさへ無ければ、目を醒ましてなきたてることも無いものであります。この不快なる感じも早速取り除かれて仕舞へば又も元の眠りに歸つて、平和で汚れの無い心の樣をその儘に顏面に浮かべて、見るからに罪の無い天國の人の樣になるのであます。

生れてから大凡そ三ケ月の間は睡眠がその生命である程で、間がな隙がな眠つて計り居るもので、覺醒ゐる隙は極めて無いものであります。次の三ケ月即ち四ケ月乃至六ケ月の小供になると、腦や神經が

だん〳〵發達して、外界の物ごとに多少づゝ氣を留める樣になり、從つて睡眠と睡眠との間隙が稍々長くなる樣になります。七八ケ月から滿一年の頃になれば精神作用は益々發達して、或目的に向て心をはたらかせ、或考へに從つて活潑に手足を動かす樣になり、理解力もだん〳〵發達して周圍の事柄に對し面白味と、好奇心と慾望とを以て之を見聞し、覺醒の時間は漸く長くなつて睡眠の時間は追ひ〳〵減ずる樣になります。それでも尙ほ一日二十四時間の大部分は大方睡眠のために消費さるゝ者であります。

二歲の末から四歲の始めにかけては少くとも夜は十二時間、晝は一時間乃至二時間の睡眠を要するもので、夜間十二時間乃至十三時間の睡眠を妨げなしに出來る四歲以上の小兒には、さして晝寢をさせる必要も無く、之を强ふるのも亦た困難であります。

一般に小兒の睡眠時間に就ては年齡によりて多少の相異はありますが、四五歲以上の小兒には九時間から十一時間位は是非共安眠させねばならぬもので、破瓜期になつてから始めて之を短縮すべきであります。

（二）小兒の睡眠障碍

小兒の安眠を妨げ若くは安眠から覺醒せしむる原因にはいろ〳〵あります。

痛み性の創傷の病氣が身體の何處かにあるか、咳嗽を込み上げて呼吸作用が困難であるか、下痢や腹痛があつて堪へられぬか、皮膚に瘙痒性のある病氣があつて煩はしいか、鼻がつまつて息の出し入れが苦しいか、熱があつて譫語を云ふか、都てこれらの場合には寢付きも惡く、寢入つてからも亦醒め易いものであります。

腦神經の病氣で睡眠不安の狀態の來ることも決して少くはなく、彼の强直性痙攣症と云ふて筋肉の引きつれる病氣でも夜間全く睡眠の妨げられ、夜驚症或は夜啼症と云ふ小兒特有の病氣では勿論安眠が出來ないで、乳母や母が却つて夜一と夜泣き明かすことがあります。夢遊症と云ふ病氣も折々之を見るも

のて、今迄スャ〳〵と寢て居つた小兒は急に臆氣の姿で寢床から跳ね起き、用事でもあるかの様に室内を徘徊し、時には庭園などを散歩して後再び眠りに就き、翌朝になれば全く昨夜のことを知らぬものであります。癲癇殊に夜癲癇の小兒には屢々睡眠が妨げられて危險の狀態に立ち到ることがあります。

　人文の進歩に連れて追々增えて行くものは神經質の小兒で、不眠もその徵候の一ッとして現はれて來るものであります。小兒の神經質になるのは一は生來の性質にもよりますが、又父母家庭の教育が誤まつて居るのも與つて力あるものであります。出來小供を教育すると云ふのは何人にも易からぬ仕事で、老練家でも尙ほ且つ難しとする所であります。況して愛に溺れ易く、情に激し易く、時としては興じ戯れて前後を忘れ、時としては烈火の如く怒りて厳罰度を過ごす様では決して適當なる教育を施すことは出來ません。この様な家庭は多くは整然たる秩序と云ふとが無いもので、從て小兒の起臥飲食にも一定の規律がなく、夜の更くる迄徒らに起きてゐる事が多いのであります。

　這へば立て立てば歩めとは世の人の親心で、古今東西親子の情にはさして變りの無いものでありますが、さりとて年歯もゆかぬ幼な兒に向つて無暗にいろ〳〵のことを敎へ込むのは良い様で決してよろしくはありません。まだ充分に發達しない身體へ重荷を負はせると同様に、小兒の薄弱な神經系統は之がために疲勞して、身體の健康に重要な夜間の休息すらも出來ないやうになります。

　小兒として大人と娯樂を一緒にさせるのも大なる誤りで、小兒には小兒らしい遊びを小兒等と共にさせねばなりません。大人の中へ立ち交つて遊ぶ子は何處となくマセてゐて、身體の成熟はまだ〳〵不完全であるのに神經のみ獨り過敏になるものであります。

　睡眠不足の害は小兒も大人も同じことで、體力はだん〳〵に衰弱し、精神も益々沈鬱して、物を記憶

へ事を習ふと云ふ元氣もなくなり、いろ〳〵の病氣に對する抵抗力も消失して、果ては無能病氣の人となり下るものであります。

(三)　不眠の療法

『大將を倒ほすには先づ馬を射つたが良い』とは昔からの諺で、病氣を癒そうとするにも先づ原因を退治したが捷徑であります。病根さへ發掘して仕舞へば『寢付きが惡ひとか』『睡眠が足らぬ』とか云ふ枝葉は、自然に枯れ果つるものであります。

サラバ病根を發掘するには何うしたらよいか、これには總ての場合に於て左程までに重大のものと見做されない些細な事柄までも、細大漏らさず詮議をして何處に病根の潜んで居るかを探知せねばなりません。即ち一般の生活の有樣、平素の習慣、生來の氣質、身體の榮養、教育の方法等に亘りて廣く詳細に注意すべきは勿論、學校の成績、家庭教育の効果なども參考し、又夫れ〳〵の專門醫から耳と云はず眼と云はず身體の内外、體溫の昇降等まで委しく診察て貰はねばなりません。かくて不眠の原因が全く肉體の上にあれば多くは醫士の治療によつて治ほるもので、例へば夢にばかり襲はれてゐて終夜安眠の出來なかつた小兒が、鼻咽喉の部分にある淋巴腺の肥大したのを療治して貰つたがため、忽に安眠の恢復した例は決して少くはありません。

一般の生活方法を改め、秩序的生活をさせる樣にするのは何れの家庭にも必要で、寢る時刻と起きる時刻とを精確に定めて、苟且にも之を破らない樣にすれば、定刻になれば自づと睡氣を催ほす樣になるものであります。食事の時間と飲食の分量も大凡そは定めて置くのが良く、只時と場合とに由り多少斟酌すべきであります。更深けてから夜食をして胃を充滿させるのは睡眠不安の一因であります。飲食物も詮議して香の高ひものや、お酒の入つたものや、濃い茶及び珈琲等は之を避くるのが宜い。

學校及び家庭に於て無暗みに注入教育を施し、頑是ない子にこれも教へ、何れも習はせ、徒らに『小

兒學者」を造らうとするのは大なる缺點で、これが爲めに怜悧くはなるが偉大くはなれない、敏捷にはなるが度量ある人とはなれぬ、早熟はするが晩成を期することは覺束かない、廣く物事には通ずるが深く原理に達することは出來ぬ『十歳を神童、十五歳て才子、二十歳過ぎては尋常の人』と云ふのは此種の敎育を受けたものに多い。よしや小兒の時は鈍才ても將來益々發展することが出來る樣にするには、學校及び家庭はその責に任じて、過度の學課を命ぜぬ樣に心掛けねばなりません。

種々の方法を竭くしても治ほらない樣な頑固な不眠症の時には、周圍を靜かにして小兒の神經を刺戟せぬ樣にし、燈火を滅して暗黑にし、信用のある母か祖母がその傍に來て、時々手を探ぜ身體を摩つて、小兒の神經を安靜にさせ、或は單調で意味の淺い昔話しや、小兒の神經に觸らぬ樣なお伽噺しを、極く輕妙に低い聲で談してきかせ、又は昔から傳つてゐる睡歌などを低唱して、次然〳〵に眠に誘ふときは遂に之に釣り込まれて寢入る樣になるものであります。蓋し小兒の大腦は既に疲勞して居るから、眠らせるに都合の良い機會さへあれば速に他愛も爲くなるのは必定であります。

昔から傳はつてゐる搖籃は寧ろ有害であつて、今日では餘り用ふるものは無いが、倘ほ小兒を懷抱いて之を左右に搖り動かして眠らせる法は、國民一般の用ふる所であります。これは確かに有害で、之がために小兒は輕度の眩暈を來し、度々くり返へさるれば遂に腦や神經を害するに至るものであります。

子兒を寢かし付けるために或は寢入つてから後も、母や乳母やその他の人が一緒に寢ると云ふのは良くないことで、精神上の害は云ふ迄も無く、衞生上に於ても小兒と大人と兩方に不利益であります。初生兒の之がために壓迫されて窒息して死する場合は決して少くないもので、日々の新聞紙上にも往々散見る所であります。母や乳母の乳房のために窒息して死する子兒は、我國では何の位の數に達するも

のか知りませぬが、十八世紀に有名なるスエーデンの小兒科醫ローゼンスタイン氏の云ふ所に由ると、同國で斯樣にして死する乳兒は一年間實に七百人に及ぶとのことであります。

寢室を暗くし、周圍を靜かにすると云ふのは、充分なる安眠をするに必要な條件ではありますが、若しも小兒の之がためには却て不安の念を起して、寂しいと云ふ感覺にうたれ、或は怪物や幽靈の來りはせずやと氣遣ふ樣な場合には、燈火を點けて寢かすのも大に有効で、小兒は之がために周圍の人と連絡があると云ふ考へから安心して眠り付くことであります。

神經が過敏で眠られない子兒に適度の濕浴をさせるか、身體に濕布繃帶を置くか、ぬれた手拭で身體を摩擦るかなども、催眠の効を奏するものであります。盛んに運動を奬勵して日中新鮮なる空氣中で身體を疲からせる時は、夜に至れば全くグッタリして、一夜を一睡に過ごすものであります。

以上は獨逸のシエーネベルヒ兒科病院長ドクトルカッセル氏が、昨年發行の獨逸醫事週報と云ふ雜誌に記述したうちから、大方諸姉參考にならうと思ふ部分だけを書き摘まんで、之に多少の衣服を着せたのであります。

（完）

涙

醫學士　渡邊房吉君

（一）涙の分泌

笑ひといへば何となく陽氣で、浮きたつて、幸福で、而して願はしいやうに思はれるが、涙と云へば陰氣で、沈み勝ちで、不幸で、而して忌はしいやうに思はれる。故に何人も『笑ふ門には福來る』と云ふて笑ひさゞめく聲の溢れんことを願ひ、『泣き面を蜂が刺す』と云ふて鼻をすゝる音の無からんことを望むのである。たとへば笑は晴れ渡つた碧空で、涙はそぼふる雨の天氣である。草木禽獸は晴天の日光

に浴びて生氣を呼吸して居るが、又雨の惠みによりて生長發育する者てある。家庭に彼を缺いたならば餘りにしめり勝ちてある、而し、此が無かつたならば、日常の生活が餘りに沙漠の旅の樣て、乾燥し過ぐることはあるまいか。「鬼の目」にも涙の玉の宿ることのあると云ふてはないか。神は自然の要求として人類に涙を與へたのてある、吾々は感謝して此惠みを受けなければならぬ。故に予は今生理上から此涙に就て考へて見たいのてある。

そも〳〵涙とは眼球の上側部で、眼瞼の奥の方にある涙の腺から分泌せらるゝアルカリー性の液體て、水分九十七、八に對して〇、四乃至〇、八位の鹽分をふくんてゐる。故に少しく鹽辛ひ味がする。此涙が入用と云ふ場合には早速分泌せられるのは無論てあるが、イツ何時その入用があるかも知れず、その時に差し迫つてオイソレと間に合はなくては困るので、たへず不時の用意として多少の貯へがあるのてある。

（二）涙の作用

然らば涙の作用と云ふは何てあるか。もと〳〵眼球の上には結膜と云ふ一枚の皮膜が掩ふて居つて、空氣と相觸れ合ふために、たへず其面より水分が蒸發して乾燥する。乾燥すれば油のつきた車の軸のやうに、眼瞼と眼球との摩擦が多くなり、眼瞼が重くなつて次然に睡氣を催ほすに至る。全く涙が出なければ眼球は丸て動かなくなる。故に之をうるほして滑澤ならしめ、兼てその乾燥をふせぐ爲めに涙が分泌せられて、その都度まばたきに由つて眼球全面に涙が行き渡るのてある。

お三どんが居ねむりをするのも、書生が讀書して眼が澁くなるのも、婦人達が宴席に侍して屢々眼をしばたゝくのも、何れも涙の分泌が減じて眼球が乾燥して來るからてある、故に眠いときには次然と眼をこすりて其機械的刺戟により涙を出さうとする。怠け者は晝寢の夢から醒めて眼をこする、朝寢の坊チャンは『モーお起き、學校へ遲れますヨ』と搖り

起されて、暖かい床からたち上りさま先づ兩手で眼をこする、何れも眼をこすつて涙を出し、眼球をうるほして眼を醒まそうとするのである。

一般に睡眠中には涙の出ないと云ふのは、涙が出なくなれば睡氣を催ほすことでもわかる。

家のガラス窓が塵ほこりの爲めに汚れたならば、之を清潔に拭はなくては家のうちは明るくなるまい。眼は人體のガラス窓で、この窓に巷のちりが吹きつけては外界の物體を看取することは出來ぬ。故に涙がたへず分泌して之を拭ひ去り、或は之を溶解して後そとへ流し出すのである。若し涙の此作用が無かつたならば塵のちまたに住む人の眼は、恐らく「ゴミ溜」の如くなるのであらう。

（三）　涙の最後

谷間の水は水車を廻轉し、稻田をうるほした後に、流れ〳〵て他の川に落つるやうに、涙は眼球をうるほし、その塵埃を洗ひ去つた後は、何處へか落ちねばならぬ。ところで眼瞼には古來水とは呉越の間柄の油の腺があつて、たへず少しづゝ分泌して其裏面を警戒してゐる。故に水に屬する涙は勢ひ瞼裂を拔け出で、双頬指して落ちのびねばならぬことゝなる。然るに此處にも警戒の順備があつて、落人を取り逃がすまいと眼瞼の縁には數列に睫毛の柵を結び連らねて、ひし〳〵と堅めて居る。是に於てか途方にくれた涙は、漸く活路を眼瞼の内側にある涙點に求めて之を傳ふて涙嚢に入り、更に涙管の長道中を經て、鼻腔中に落つるのである。

『鼻をすゝる』とか『すゝり泣きをする』とか云ふは鼻の中へ涙の落つる爲めてある。然かしながら落つる涙の軍勢が多いときには流石に眼瞼と睫毛との力のみては支へがたく、遂に頬にはふり落ちて衣の袖をうるほすに至るのである。

（四）　涙を出す生理的の刺戟

斯の如くに眼球が乾燥するか、異物が眼中に入ることがあつて、反射神經が之を涙腺に傳へる時は、宛然義僕が主家の難事に走せ參ずるかの樣に、涙は

速に駈け付けて之をうるほし或は之を洗ひ出す。咳嗽をしたり嘔吐を催ほしたりする時には、眼の邊の筋肉が收縮して涙腺から涙をしぼり出す。強い光に射らるゝ時は眼球の危難を救ふために涙が出る。その他いろ／＼の刺戟て涙が出るが、精神の感動によりて落つる涙が最も趣味に富んだやうに思はれる。

(五) 涙を出す精神的の刺戟

人事社交の上に最も勢力があり、歴史上の事實に最も關係があり、詩歌文學の上に大なる感興を與へるのは此種の涙である。斷腸の悲運に沈む時も、歡喜の情にあふれる時も、憤怒のほむらの燃ゆる時も、すべて七情の動搖が刺戟となつて涙が出る。故に大腦には涙の分泌を司る特別なる中樞があるだらうと推測する學者もあるが、未だ確實に發見せらるゝに至らない。且つ悲しいからと云つて何故に涙の出るか、うれしいからと云つて何の必要があつて嬉れし涙にむせるかも未明の問題てある。

日露交戰頃の新聞に捕虜の涙の顯微鏡圖が載せてあつたとがある。成程修羅の巷に怨みを吞むで倒れる勇士の熱涙も格別であらう、生命の取り遣りと云ふ此世からの地獄に送り出す離別の涙に味ひは籠らう、子弟の訃報に接したる遺族の紅涙も特別であらう、が、精神感動によりていづる涙と、他の刺戟によりて出る涙との間に、果して化學的並に組織的成分の差違があるか何うかは知らないが、兎に角涙腺には上下の二種があつて、上涙腺は精神感動のために分泌し、下涙腺は平素眼球の粘膜をうるほす爲めに分泌することは事實に近い樣である。

(六) 涙の價値

賣笑婦の空涙や、放蕩むすこの父母を欺く涙は除外として、涙の貴いのは其正直でなければ出ぬとである。如何なる大賊でも惡婆でも泣く時ばかりは人の本然に歸て、塵ほどの惡分子をも留めぬのである。

涙は人類唯一の賜物であつて、動物は精神感動によつて涙を流すことがない。動物では其子を失ひ、其親と別れた時でさへ涙を流さぬ樣である。妊娠し

た狐狸が涙を流して獵師に生命を乞ふたとか、子を見失つた猿が涙を流して捜がし廻つたとか云ふ昔話しは、何れも荒唐無稽のことで、犬も、猫も、虫も、鳥も涙を流すことが無い。鹽原太助がその愛馬に別るゝ時ホロリと流れし一滴、馬の眼瞼から落ちたので、畜生ながらトッテモ可愛い奴と云つて別れ兼ねたと云ふ物語りも決してあてにはならぬのである。

嗚呼この人類にのみ惠まれた涙の價値は貴いでは無いか、これがために盡きぬ慰めを得ることは如何許りであるか。曾て一少女があつて其母に云つたことがある、「妾は一幼弟を失へる女友の悲しめるに逢ひ、何等の慰むべき言葉も出でざれば、互に首を垂れ、共に泣きて、川なす許りに涙を流せり、之によりて彼女も妾も云ひ難き慰めを得たり」と。

悲しむ者と共に悲しみ、喜ぶ者と共によろこぶことを得るは、人類の一大特權であつて、又一大幸福では無いか。一家のうちに此涙が無かつたならば其家は同情の枯れ果てた家である。左樣な家は家屋と云ふことは出來るが、家庭とは申されまい。慈母の涙に引かるゝ遊子の心、愛する妻の涙に動かさるゝ良人の心、何れも樂しき家庭のすがたでは無いか。若し夫れ他人の悲しみに流した涙で洗はれた吾々の眼球は、いかに燦爛として異彩ある光明を天上のかなたに見得るでは無いか。

（完）

女性の美（續）

醫學士　渡邊房吉君

●身體各部の釣合

これは女性の美に最も必要なる一の條件であるのに、日本の婦人はどうも此點に注意を拂ふ事が少くない、美と云へば直に顏面の事ばかり考ふる樣である。往來を歩いて居る婦人を見ても單に小いばかりでなく、釣合の取れて居ない、形の醜い人が澤山あ

る、併しまだ東京はよいが地方では實に甚しい、地方から東京へ來た人は婦人の後姿の立派なのに驚いて居る、併し其東京の婦人を西洋婦人に比すると實に不恰好な點が多い。之れを見ると或は姿勢のよいと云ふ事は文明の程度に比例して居るのぢやないかと思はれる、して見ると日進月歩の日本婦人殊に東京婦人は殊に姿勢に注意しなければなるまいと思ふ。そこで先づ釣合につき注意すべきは

左右均等　である、之れは前回に詳しく申述ましたから略しませう。

長さの關係　細長い者、太く短い者、共に不釣合で醜いものであるが、日本の中流以上の婦人に多い欠點は細短い事である、細くて短いのなら釣合が取れて居ると思ふかもしれぬが、あまりに弱々しくて氣の毒な樣である、此樣な事は女學生諸君には既に云ふ必要はありませんが、從來の婦人の體格を見ると其欠點は運動に全く心を用ゐなかつた結果だと云ふ事がわかる。殊に中流以上の婦人達に發達して居ないのは肩及び腕のあたりてあります。反之勞働をして居る婦人や、臺所に立廻つて居る下女諸君では、あまりに立ち働きの運動が激しい爲に下肢の方ばかりよく發達して丈夫になるが、全身骨格の長さの發育が不十分である爲に身長が短くてころ〳〵して居る、併し之等は其人の職分の然らしむるのであるから已むを得ない譯であるが、世の中には成らでも濟む醜き形を自ら招いて居る場合が隨分ある、それは

骨骼の曲る事　である、小學校で机の工合が惡かつたり、教師の不注意で生徒が机に倚り掛つたりする爲に、不知不識の間に脊椎が曲つて仕舞つて取返しのつかぬ醜形を殘す事は頻々として來る事實である、かゝる事には常に其局に當る人の注意を要すると共に、脊椎彎曲の兒童を生したら直に醫士に就て整形を乞はねばならぬ。又之れと同じ道理で右の手或は左の手ばかりに重量を托する等の事より何時ともなく左右彎曲を生じたり、姿勢の惡い爲に前後の彎曲を生ずる事は往々あるから注意せねばならぬ。

此外に最も太切なる釣合は

筋肉と脂肪との關係　である、此二つは皮膚の下にあつて身體表面の形をなすに最も大なる關係を以て居る、脂肪は婦人の肉體に白色を呈せしめ、光澤を增さしめ、圓みをつけて、美の一大要素となつて居るが、其下層の筋肉の發達が不十分なる時には、何等の美をも備へぬものである。つまり其下層の筋肉の方が基礎をなすのであるから、筋肉が十分に形よく均等に發達して、其上に脂肪が骨格や筋肉に圓みをつけ乍ら、而も其元形を失はない位の程度に包んで居るので美しいのである。之れが病的になつて脂肪が甚だ少い時には、骨や筋肉の上に少しも圓みがつかないから、無暗に角立つて居て少しも美しく見えないのである。反之又病的に脂肪の多いのも醜いものである、殊に多く脂肪のつくのは臀部と太股の邊で、それが益々病的に全身に進めば所謂

脂肪過多　の狀となる、諸所の凹みは蔽れて仕舞ひ、四肢の屈曲面や乳房の下や顋には美妙なる形が失せて、溝や隆起を生じ、眞皮の緊張强き處には所謂姙娠後腹壁白線に似たる白色の尖つた瘢痕を生ずる程になる。此樣な脂肪過多の人が何かの關係で俄に痩せる樣な事があると、今迄緊張して居た皮膚は俄に又縮んで仕舞ふ譯にも行かぬので、弛くなつた儘で身體の表面について居る、其爲に弛い處程多くの皺を生ずる事となつて益々醜形を來す事となる。脂肪過多は單に醜いはかりでなく恐ろしい事があるそれは心臟病に罹り易い事であります、心臟病も輕症なのはよいが重いのは甚危險である、心臟病のある人は結婚する資格が無いと議論する人さへある位だから注意しなければならぬ。扨て脂肪過多の人の療法はと云はゞ運動をして食物を變する事である。併し運動も急に始めては害がある漸次にやらねばならぬ、殊に旣に心臟病に罹つた人には運動は禁制である。又食事は量を減じなければならぬ、之れも急に減じては宜しくない、又食物の種類も變じなければならぬ、脂肪類を喰つてはならぬ、又脂肪て

なくても喰て體內で脂肪になるものはいけないと云ふ樣な有樣で、なか〳〵難かしいから醫に就てよく治療を乞はねばならぬ。

理想的の體格　よく釣合の取れた、大さも重量も十分に發達した婦人は如何なものかと云ふ事を示すために左に掲ぐるはフィヤオルト氏の式であります。式中のBハ胸房の高さではかつた胸の廣さを仙迷で表はした數、Kハ體重を基瓦で表はした數、Lハ身長を仙迷で表はした數であります。

$$\frac{L \times B}{240} = K$$

之れを例を以て示せば、身長百六十八仙迷、胸の廣さ八十八仙迷ならば

$$\frac{168 \times 88}{240} = 61.6$$

即ち此時は體重六十一・六基瓦ならば適當なのです。

● **女性美と疾病**

最後に疾病の女性美に關する關係を述べましやう、勿論如何なる病氣と雖も病氣になつて美しくなるものは無いから皆關係があるが、それを皆かき立てては際限が有りませんから、只最も關係の深い二三のものを記す事としましやう。

其一、肺結核　之れは隨分多くある病氣で、ストリュンペルの報告によると人間の七分の一迄は肺結核で死ぬとまで言て居ます。扨て結核的容貌即ち肺結核の素因を持てる人の容貌とて同氏が記述して居る處は次の如くであります。「結核的容貌の特徵は、痩せて稍や細長き體格、虛弱なる肉附、微弱なる脂肪層、蒼白なる柔き薄く透き通れる皮膚、頰に限局的に紅を呈せる事、細長き首、細長き胸廓、細長き手、胸廓は長さの著しき外に細くして扁平なること、從て又肋間の幅廣き事、胸骨の細長き事、胸骨柄部と骨體との間の角の殊に突出せる事、鎖骨上下の窩の殊に深くなれる事、肩胛骨が胸廓とはなれ居る事等であります。

其二、瘰癧　之れは肺結核と密接の關係があるもので、之れも多くは結核菌の作用で起るものであります、瘰癧と云ふ字は拉丁語の豕と云ふ字から來たもので、即ち瘰癧の患者は頸腺や鼻や上唇が腫大して豕の樣な面付になるから此名を得たのであります。瘰癧には二種類あつて、第一の形は遲鈍性腺病とて著しく顏が膨張するので、鼻も口も太くふくれ、上唇は象の鼻の樣に突出する、頸腺は腫張する、破膚の色は靑白く汚れる、肉附は衰へる腹の皮は厚くなる、四肢は細くなる、眼瞼は炎症を起すと云ふ有樣で。第二の形は過敏性腺病とて皮膚が潮紅を呈し、身體瘦せ衰へ、腫大せし腺は化膿せんとし、一般の狀態は肺結核の人に似たる容貌となる者である。

其三、皮膚の疾病　之れは一般の身體の形に對してはさまでの影響は無いが、跡に瘢痕を殘す爲に身體表面のきめと色とを惡くするのである。之れに第一考へらるゝのは疱瘡であるが、之れは種　痘が行はるゝ樣になつてからは罹る人は殆ど無いから先づ安心である、母斑も場所によつては醜いが、之れは小いものは譯もなくとれるし、大なのも醫に行けば取て貰ふ事が出來る。

其四、筋肉の疾病　としては重き脊髓疾病の經過中に筋肉簇が消失する如き事があるが、其他往々來る疾病は進行性筋萎縮と稱するもので之れは概して若い者に來り、ある一定筋簇を侵し先づ之れを肥厚せしめ、次に萎縮させるのである、故に其位置によりて身體の形を大に變ずる事となる。例之ば一の形として、胴の疾病にて、肩の筋肉の中に前後より肩に來て居る筋肉即ち胸筋・大前鋸筋・濶腰筋・菱形筋・濶背筋・僧帽筋等を侵し上より來て居る筋肉即ち三角筋・棘下筋・棘上筋等は侵されない、此結果は頭と首とが前に垂れ、肩胛骨が隔離し、上胸部が扁平になる。又他の例として下肢に來りし者では、主に臀筋を侵し股四頭筋をも侵す、此結果は大腿の前部扁平を來し、臀部と大腿の間に褶が著くなるのである。

其五、骨格の疾病　の中て身體形狀に最も關係の

深いのは佝僂病即ち英吉利病であります、此名は諸君の記憶の中に未だ深く存して居る事でしやう、昨年富山縣下に奇病が起つたと云ふので有名になつた病氣であります、之れは主に一歳から四歳位の小兒に來るもので稀には大人にも來ることがあります。之れは骨の發育に障害を來す病氣で骨に石灰沈着が少なきために柔きまゝ存し、關節部で肥厚するのであります。骨が柔軟なる爲に筋肉の牽引力や體重の壓力に作用されて屈曲を生ずる而して其屈曲は小兒が歩行を始むる樣になると下肢に於て著しくなつて來る、之れが治癒する時には、强き石灰沈着が起り、爲に四肢の屈曲と關節の肥厚とを殘すのである。

今英吉利病にて起る著しき變化を記せば(一)手關節殊に小指側の尺骨小頭の肥厚、(二)下膊の屈曲及下膊が上膊に對し斜になる事、(三)脊髓及胸廓の屈曲、(四)腰部が狹くなり爲に懸垂腹を來す、(五)踝關節及膝關節端の肥厚、(六)大腿及下腿の屈曲、O字脚、X字脚、扁平足等であります。

(完)



日常衛生

醫學士　河野衛君

つらつら吾人人類社會の狀況を窺ひますに實に日進月歩の勢でヅンヅン發達進歩いたしまして隨て社會生活は日に月に複雜を極め生存の競爭は益々烈しく社會の各階級を通じて生活は益々困難に赴きつゝあります慥に此れは事實でありますけれ共人間が元來生物である以上乃至向上進歩すべき筈のものである以上是れは到底避くへからざる事柄であります斯くの如くに人類文明の進歩に社會の組織を複雜にし一切の職業なり社會事業なりが繁雜となり教育も盛んとなり其結果精神と肉體とを過勞する事になりますから吾々の身體に甚しい變化を起して來まして種々なる病氣が發生します即ち病氣に罹り易くなるのであります昔の人間よりも今日の人の方が弱いと

いふ人がありますけれ共今日の人が弱いといふ譯では無くして社會が進歩して居るから前申上けたやうに精神身體を過勞する事が多い爲めに勢力が消耗し身體の抵抗力が減じて來て隨て各種の病に襲はるゝ者が多くなるのであります世の趨勢を見ずして一概に現時の人が薄弱であるといふ事は決して至當な説ではないのであります

斯樣な次第でありますからして今日の文明社會に立つ者は只だ病氣に罹つた時大切に養生をする或は病毒に當らない樣にするといふばかりで無く平素健康な時にも健康な身體を益々健全にする事を心掛けなければなりませぬ即ち病の發生を防遏すると共に人の健康を高むる事を計るのが必要であります

人の健康を高め社會の福祉を增進するのは衛生學の目的とする所でありまして其實行には色々の方法がありますしかしながら玆では日常吾々の心掛けなくてはならぬ事柄の中て主に精神の方面に屬する事丈けを述べて見たいのであります

精神身體を過勞すれば種々なる疾病に罹り易くなりますけれ共反對に身體精神が餘り安逸に流れますと又病の源となります神經衰弱といふ病がありますが此病は文明社會に多い病でありまして我國でも近時益々之に罹る人が多くなつて來たのであります此病の發生は固より精神身體の過勞から來るのでありまして例へば田舍の農をして居た人が急に東京のやうな所に出て來たやうな場合にも此病に罹りますそうして反對に是迄多忙の身であつた人が急に隱居でもして安樂になり過ぎると同じく神經衰弱に罹る事があるのでありますそれから過勞の結果でなくとも身體及び精神の攝養を誤まつたり職業の撰擇に注意しなかつたが爲め神經衰弱に罹る事もありますそれで吾々は常に

一定の仕事に從事する

といふ事が極めて必要でありまして常に注意力を集中し興味を以て事に當らなければなりませぬ實に注意力を集中して仕事を營んで行くといふ事は人をし

て健康ならしむるもの丶中で最も大なる關係を持つものであります注意力が集中しない時は仕事は一向纏まりが附かず隨て興味も出て來ず不愉快になり其結果遂に色々な病に侵されるやうな事に立ち至るのでありますそうして規則正しく仕事をするには

身體及ひ精神の休養

といふものが極めて大切なる要項であります吾々が充分なる勢力を以て事をなすにはどうしても休養といふものが無くてはならぬのであつて勞働と休養とを規則正しく行つて行く事は身體を健康にする上に於て最も肝要な事柄であります併しながら其實行は極めてむづかしいのであります働きと休息との間の調和がよく取れて居る時は吾々の勢力を無駄に使用する弊もなく仕事に熱心になり注意力がよく集中しますから隨て仕事に興味が出て來て自然と身體は健康に保たれるのであります然らは何時間働いて何時間休養すれば宜しいかと申しますに是れは一定の事は無いのであります即ち職業身分等人に依りて境遇が夫々ちがひますから決して一定の標準を立つる事は出來難い即ち精神を勞する人と身體を勞働する人とは大に趣を異にして居ますけれ共先づ一日誰でも八時間位仕事に從事する事にすれば充分でありましやう併しながら精神上の仕事になりますると色々と趣を異にしますからして一定の事は申されませぬ而して

思慮の轉換

と申す事は精神的仕事を營むものに取つて極めて大切な事でありまして時々仕事を換へて思慮を他に轉ずるのであります千篇一律は四時同じ事ばかりに從事して居る時は飽きて來て一向興味が無くなつて來ますそれ故時々考へを他の方向に轉じ又元の考へに耽るといふ風にやつて行くといふ事は精神的の勞働をなすものに取りて極めて良き休養法であります日曜日の如き休息日には愉快なる遊びをして連日の勞苦を全く忘れてしまつて全く異なつた方向に考へを轉ずる事が出來ますから實に大切なものであります

そして其次の日からは更に新鮮なる力を以て仕事を營んで行く事が出來ます

その次に吾人の身體精神に休養を與へ健康を賦與するものは實に

睡眠

であります睡眠は自然の休養でありまして誠に大切なものでありますから睡眠に付きては充分正しき觀念を持つ必要があります睡眠を決して無意味に行つてはならぬですナポレオンは四時間しか眠らなかつたから餘り長時間眠るのは良く無い抔といつて睡眠時間の短いいを得意で居る人がありますけれ共決して正しき考ては無いのです併しながら睡眠時間は人に依りて一定て無い事は無論でありましてフレデリツク大王は五時間であつたとの事であります一般に老年の人は年の若い人よりも睡眠時間は短いのであります昔から八時間を以て定めとしてありますが今日でも矢張り大體カントの法則に從ひまして八時間を定めとするのが普通てありますけれ共元來人の睡眠時間といふものは一定して居ないのでありますが精神の疲勞全く去り心身の爽快となる迄眠らなければならぬのでありまして任意に此時間を短縮するのは宜しくないです

吾々が醒覺時に働いて居る間は神經の中樞即ち腦の働きを要するものであつて極く細み入りたる神經系に張力といふものがあるのでありますけれ共睡眠中は此張力が緩んで來て靜止し筋肉も靜止し溫熱の發生も減少して來る其間に再び新張力が貯へられるのでありますそれ故睡眠は慥に貴ふべき休養法の一つてあります睡眠の完全に出來る人は健康であり健康である人は善く睡眠するものであります然るに

睡眠の障碍

せらるる事が極めて多い事でありますそれは種々の病的狀態の時に顯はれるのでありますが最も屢々見るのは神經衰弱といふ病それから神經質の人によくある事であります睡眠が障害せられると腦筋肉の休養が不充分でありますからして隨て精神作用が不完

全て健康を害する基となります睡眠が一旦障害せられますると回復する事は中々困難でありまして精神病者の如きは數週も數月も安眠が出來ぬ事があつて身體は急速に衰へて來ます「ヒステリー」病でも同様ですそれから精神を過勞したとか不規則な生活をすると睡眠が障害せられまして容易に回復しないものでありますそして睡眠が障害せられた時は

安眠を得る法

を講じなくてはなりませぬそれには種々の藥劑を用ふる事がありまするが大抵の場合に藥を用ひないやうにして自然的の方法に依るのが最も宜しいのでありますそれには眠に就く前に少しの體の運動をしたり或は微温湯で以て身體を洗ふとか湯に入るのも宜しいですそれから可成外界の刺戟を避け安靜で暗く室内空氣の流通の佳良なる寢室を撰み適當の温度を保たしめ眠る前に大食しない様に注意しなければなりませぬ食過すると胃腸に刺戟を起しまして睡眠を妨げます又茶珈琲或は辛い物の如き凡て刺戟の強い食物は一切禁しなくてはならぬのでありますその外精神を安靜にするといふ事は極めて大切であります要するに睡眠は身體及ひ精神の休養法の中最も佳良なる方法でありまして健康なる睡眠を得る事を心掛けなくてはなりませぬ而して身體と精神とを規則正しく適當に働かすといふ事は吾々が健康なる睡眠を得る所以の道でありますゲーテの歌に「樂しき睡眠よ汝は純粹なる幸福の如く祈らざるに來り懇願せざるに顯はる汝は堅苦しき思想の絡節を解き快樂苦痛の區別を無くす内心の調和の環は汝の爲めに解かれ吾々は愉快なる狂氣の中に埋沒し去りて吾人の存在無きに至る」といふて居ります

次に精神働作をするものに取りて殊に必要であるのは

午睡

でありましよう私は午睡を極めて善良なるものと思つて居ります一日に一回十五分乃至二十分間眠るのです是れは規則正しく行ひ決して此以上の時間眠つ

てはなりませぬ通常の臥床の中に入りて休むのてすもし眠る事が出來なければ其儘床の中に仰臥して居ても宜しいてす此時身體を充分に伸ばして横臥しますとたとへ眠らず共精神身體の休養に極めて効能が多いのてあります或は床の中に入らず共一日二回午前と午後とに分ちて一回十分間位單に横臥する習慣を付けるのもよい事てすからこういふ事に注意しますと今日多くある神經衰弱に罹るのを豫防する上に於て餘程効が多いのてあります午睡をすれば風を引くから良くないとか又は午睡をすれば後て心持ちが惡い抔いふ人がありますけれ共是れは其方法が惡いのてあつて長時間眠るとか又は床の中に入らずして其儘疊の上に寢たり抔しますに依て起る事てありまして適當の注意を拂ふて少時間眠れば決して害がある事無く大に休養の効があるものてありまして精神的の仕事に從事するものに取つて極めて大切な要項てあります

吾々が日常健康てあり健康なる身體をして益々健康ならしめ神經の力を完全に維持し生存競爭の劇烈なる世の中に立ちまして働いて行かうといふには睡眠と勞働と休養とに深き注意を拂ひ此等の間時間の調和に注意するのが最も肝要てあります

食養生の話（上）

東京醫科大學　ＡＢ生君

博覽會の準備

の爲に東京市ては又春季の大清潔法をしやうと云つて居ます、大變結構なことてす各地から多くの人が集つて來るのだから餘程注意しなければなりますまい、博覽會があるからと云つては清潔法、コレラが流行すると云つては清潔法、ペストが來たからと云つては清潔法、其他鼠を買上げたり、トタン張の蔽をしたり、下水を修理したり、家を燒き拂つたり、隨分當時は思ひ切て公衆衛生には注意をせられる樣になりましたこれ程社會衛生が進んて、其筋の人が

注意して居られるにも拘らず、折々それを打破してとんでもない病氣が流行して來るのは誠に殘念な事であるが、之れ其大原因は

個人衛生

が進んで居ないからと云はねばなりませぬ、そして個人衛生の中でも最も關係が深かく、最も多く病氣の原因をなして居るのは食養生のよくない事である、健全なる身體には病氣は寄りつかぬと云ひますが實に眞理であります、寄り附かない譯では無いが寄り附ても病の方で負て仕舞ふから平氣なのであります、肺病の黴菌等は市中の空氣中には澤山飛で居り、肺病患者の嗽をした時等にも澤山飛び出すので、人は澤山之れを吸ひ込んで居るのであるが、其中にも感染する人は極少數の肺の弱い人だけで、呼吸器の強い人は結核菌位は恐ろゝに足らぬのであります、それと同じく「コレラ」や赤痢の如きも食養生のよき胃腸の强き人には罹る事はない、「コレラ」流行の時等に隨分健全な人の便中に「コレラ」菌を發見することはあるが、併し其人は無病であつたと云ふ例が報告されて居る、實際病氣の流行中には其病源たる黴菌が食物と共に入る機會は澤山あるのであるが、其時胃腸の惡い者は之れに侵され、胃腸の强き者は平氣で居る事が出來るのである、併し如何程胃腸の强き人にても、一寸でも不養生な事をすると云ふ事は甚だ危險な事で殊に食ひ過ぎの爲に病氣になる事は多くある事である、或人の言に「人間は餓死するより飽死するが多し」とあるのは實にうがつた云ひ方である、人は一日や二日餓へたからと云つて直に死ぬ程の事は無いが、唯一度の過食の爲に赤痢やコレラにかゝつた人もあり又それから種々の慢性の病氣に變性して一生涯不愉快に送らねばならぬ人も隨分あるのであります。病氣の事は先づ別問題として考へても、食養生を十分に心得て居なければ人間の身體が續かない。一體

食物は何の爲に攝取するのか

と云ふ事を考ふるに、日に三度々々體內に取入れ

る食物は只何でもかまはず胃の腑の中につめこみさへすればよいかと云ふにさうはいかない、口から入れた食物をそれだけ腸から外に排出して仕舞ては何にもならない、差引勘定少しも殘らずでは身體は續く筈がない、身體を強健に保存する爲には、食物の中の營養分が胃腸で吸收されて、それが體成分となり、一方排泄さるゝ量よりも其吸收分量が多くなくてはならぬのであります。斯樣な次第でありますから

食養生の根本意義

即ち個人衛生の原則とも云ふべき事は、第一に消化吸收作用の完全をはかる事と、第二に營養分の多い食物を攝取する事とであります、故に此二大法則につきて詳しく述べましやう。

消化作用

とはどんな事かと云ふに口よりとりたる食物は種々の形になつて居るのでありますから、之れを色々の方法にて小くし、液體の物質となして吸收作用に便利のものとなし、其殘りの物は直腸の終りから體外に出すのであります、而して重に消化作用の行はれる所を大別して、口腔内、胃、腸の三つと致します、今之れを順次説明しましやう。

口腔内の消化作用

口の中に消化作川をなすのは第一に齒で咀嚼する事である、齒でかむ事は大きな形のものをかんで少し小さい形の物にすればよいと云ふのではない、小さな物でも軟かい物でもよくかんでやらねば胃の方へ行つてから困るから、可成胃に迷惑をかけぬ樣にしなければならぬ、又食物の中には胃に行くまでもなく口腔内にて消化作用を終て仕舞ふ物もあるのであるから何でもかでもよく咀むがよい。口中で消化作用をする器關は齒の外には唾液である、此唾液の功用は二つあつて、一は飯とか野菜とか云ふ含水炭素類と稱する物は唾液に消化されて糖分と云ふて砂糖樣の物に變ずるのであります。今一つの用は咀み砕いた食物は唾液に混じて液樣の滑かな物質となる

から嚥下するに便利になるのであります。此樣に必要な物であるから。食事の時に之れが出てくれないと大變困るが、此唾液の出るのは食事する度に出さうと思つて始めて出るのではなくて、何とも思はずとも食物を口の中に入れさへすれば直に出て來るのである、又口の中に入れなくとも只美味い物を見ただけでも澤山に唾は出て來るのだから、實に便利な仕掛と云はねばならぬ。然るに此唾の出る事の大變少ない時がある、それは非常に怒つて居る時、非常に悲んで居る時、非常に心配をして居る時、食慾のない即ちうまいと思はない時等に食事をする場合である。此樣な時には唾が多く出なくては口中の消化も不十分になると共に、漸く胃の中に送られても胃で又胃液の出る事が少ない爲に消化は益々惡くなるのであります。だから食事をするにはよく腹をすかして食慾をつけて置いて、喰ふ時には談笑の間に樂しく喰ふ樣にせねばなりません。此唾液は一體どこから出て來るのかと云ふに之れは耳下腺（耳の下の方にあるもの）舌下腺（舌の下の方にあるもの）顎下腺（下顎骨の下の方にあるもの）と云ふ三つの唾液腺と云ふものがあつて、そこで唾液を製造して貯へてあるが入用の時には神經の方からの命令のまに〱出すのであります。口中の消化は以上で終つたから咀み碎かれた食物は食道を通つて胃の方へ參ります。

胃に於ける消化作用

水落ちの處の痛い人は胃病だ〱と云つて居るから多くの人は胃は何處にあるかと云ふ事は知て居るのでありましやう、腹の中では横隔膜の直に下にあつて、一升餘り物が入る位の大きな嚢でありまして、左上端は食道に、右下端は小腸に連なつて居ります、此所が消化作用の本場で、最も多く病氣の起り易い所であります。昔の面白い譬へ話に、身體の中で胃ばかりが美味いものを喰て居て外の所は皆せつせと働くばかりで少しも面白い事をしないと云ふので、身體中の各部分が手や足を大將として騷ぎ始め

て、胃は失敬な奴ぢやから、どんな美味いものがあつても胃には送つてやるまいと云ふので、手は少しも食をとらず、足は少しも食のある所に歩まなかつた、ところが漸次に身體が弱つて來て手足が細くなつて來て終に身を支へる事が出來なくなつたと云ふ話がある。つまらんお伽話だが之れでも胃の働きの如何に大なるかが知れる、胃の作用は澤山ありますが之れを大別すると三つになる。

第一はバクテリヤを殺す役目である、水道の水の中にでも二三滴の水の中に數十の黴菌が入つて居るのであるから、人間が喰ふ食物や其他に口の中へ入る物には、實際如何程多くの黴菌が入て居るか知れない程である、それが皆生きて居たら如何程强健な身體でも随分危險と云はねばならぬが、有りがたい事にはそれが處々で殺される、其中にも胃で殺されるのは甚だ多いのであります。此殺す力は随分强い力であつて、結核菌やコレラ菌の如きものは皆殺されて仕舞ふ、加之當時流行の病氣にて最も人に恐れられて居る彼のペストの黴菌でも、健全なる胃の中に入ると、唯僅に一分か二分で殺されると云ふ事であります（細菌學雜誌五十四號秦佐八郎氏）勿論胃の弱い人には黴菌の殺さるゝ事も少ないのであるから常に胃を强くする事を心掛けて置かねばならぬ。

第二は食道より送られし食物中肉類、乳、卵の如き種類を消化する作用である。之れ等は食物の中でも最も滋養分に富んだ物で身體の成分となるべき物であるから、之れの消化を司つて居る胃は實に消化の根本と云はねばならぬ。扨て此消化は如何なる作用で行はれるかと云ふと、之れは胃壁が靜に働く爲に起る器械的の作用もあるけれども、主なる働きは胃液によるものである、胃液は何處から出るのかと云ふと、之れも矢張唾液の如き、胃壁の粘膜の中に澤山の腺があつて、常に胃液を作つて貯へて置き、食事の時になれば、神經からの命令で胃液を盛に出して消化作用を營むのである。ところが人の食事は大抵朝晝夕三回と習慣上定まつて居るから、食事時

分になれば胃液は盛に出て來るが、其間の時間には食物が胃に行つても胃はあまり澤山に胃液を出さないから從て消化は宜しくないのであります、だから間食はしない樣にせねばならぬ。又胃は食物が行て消化を終る迄には如何程の時を要するかと云ふに、口の中に食を取てから三四時間位にして胃の消化が終るのであります、だからそれまでは一度食を取て後は胃の方ではせつせと消化の働きをやつて居るのに、其所へ食後一時間や二時間に又新しい物を送り込まれては、又それを相手にしなければならぬから胃にとつては非常に迷惑である、間食の有害なる事はこれてもわかるのであります。胃液の分泌は食事にならば盛に行はれるのであるが、此所にも亦唾液に於けると同じく心理上の作用が加はるのであります、うまいと思つて食た時には胃液が多く出るのは事實である。又實際食物を胃に送らずとも見ただけても胃液は出るのであります。之れに就いて面白い試驗がある、ある學者のやつた動物試驗であるが、兎の食道と胃との間を切りて、食道は首の所へ縫ひつけ、胃は外に出して腹壁に縫附けて置きまして外から胃に作用が見える樣にします、そこで口から食た物は皆食道を通つて首の所から外へ出て仕舞ひ胃の方へは行かぬのであります。ところが其時に口から美味の食物を與へて置きまして、胃の方を見て居ると胃の方には澤山の胃液が出て來たさうであります。

第三には一度に入つた食物を徐々に腸に送る役目であります。食道は細長い管でありまして、腸も亦細長い管なのですから、中途に胃がなかつたら口からずつと筒拔けてあるから腸ては隨分所置に困るてあらうが、其爲に中途に大きな袋の樣な胃があつて、澤山ためて置く事ができるから、少し宛消化する程腸の方へ靜に送り出すのであります。胃は以上の如く大なる役目を持て居るもので、又度々病にかゝり易い處てあります、そこで今重なる

胃の疾病

の二三を述べて見ましやう。

一急性胃加答兒　食物の不養生の爲に來る病氣で食慾がなくなり、嘔吐、嘔氣があり、發熱し、一體に胃の部分が痛むので、之れはさしたる病氣でもありませんが、往々慢性胃加答兒に移行する事がある。

二慢性胃加答兒　之も元は食不養生から起るので、病になつてからも養生が惡い時には長くなつて治り難いものである、常に食慾がなく、嘔氣があつたり、頭痛がしたり、顏色惡く、舌には舌苔が出來、吐氣に惡臭を放ち、胃部に疼痛がある等の症狀てあります。醫者の命のまゝの食養生をして藥を用ゐて居れば恢復します。

三胃潰瘍　胃壁に潰瘍が出來るので、其爲に胃壁が穿孔する樣な事もあつて命に關る事も往々ある、恐ろしい病てあります。重に食後に烈しき疼痛か起り其の疼痛は限局的であつて、劇しき嘔吐があり時々又吐血する事もある、兎に角注意を要する病氣てある。

四胃癌　之れは名を聞ても恐ろしい樣な病氣である、先般奧村五百子女史を彼世に送つたのも此病氣である。之れは胃壁に癌腫即ち一種の腫物が出來るのであつて、其腫物は腹壁から觸る丶事が出來る、之れが出來たと氣の附く頃には最早外科的の手術も難しいのである、迅速に大きくなり他の器關にも擴つて、長くても二三年の命だとあきらめねばならぬ。

五胃擴張　胃が甚しく大きくなるものである臍の下の方迄も擴がる、折々大量の嘔吐をなす、之れには種々な原因から來るのがあるから一樣には云へない。

腸の消化及吸收作用

腸の長さは六米突半即一寸三間半計りあります、其中五米突は小腸と云つて胃に續ける細き管てありましてそれが腹腔内にうねつて居るのであります、餘りの一米突半が大腸で之れが小腸に續き腹腔の前方て上、右、左の三方を圍んて居る稍太い管て其終

りが肛門となつて居るのであります、腸の主要なる作用は消化よりも寧ろ吸收作用であります、即ち口腔や胃や腸て消化されて食物が皆糊の如き乳の如き物となつて居て、それが腸壁から粘膜を通して吸收され、それが乳糜管に入り、血管に入りて身體を循環して體成分となるのであります。

消化作用も腸管に於て行はれます、之を役立つものは肝臓から出て來る膽汁と云ふ苦い液體と、膵臓から出て來る膵液との二つが其主なるもので、是等の者の作用はと云ふと、第一に脂肪類を消化する事と、第二に口腔内で消化されずに送られて來た含水炭素類を消化する事とてあるが、出他又此等の液の用としては腐敗を防ぐ事である、腸の中には澤山長い處に物がたまるのであるから、兎角腐敗し易いのであるが此液の爲に防がれて居るのである。終に消化されなかつた殘餘の物は腐敗して排出されるのであります。腸には又其壁に蠕動と云つて蟲の動く樣な運動があつて、其爲に中に入て居るものは小腸の始より大腸の終りに至るまて、三間半の間を少し宛送られて進んて行くのであります。

腸の疾病

之れも隨分澤山ありますが大抵皆腹痛だの下痢だのを伴ふのが多いのであります。其主な病の名を擧げますれば

一、急性腸加多兒　食不養生や寒冒から來るもので、夏期に氷水や未熟の果物を飲食した後や寢冷えをした後に腹痛や下痢の起るのは之れてあります、夏には限らない四時でも來ます、多くは急性胃加多兒と共に來るものてあります。時には發熱の伴ふ事もあります。

二、慢性腸加多兒　之れは急性のものから變じたり、又は不適當な營養の爲や、胃病の後其他の腸の病の後等に來るもので、便には常に粘液が雜つて、下痢したり便秘を起したり腹痛があつたりして隨分體が弱るものであります。急性の腸加多兒の樣て一層劇しいのは、

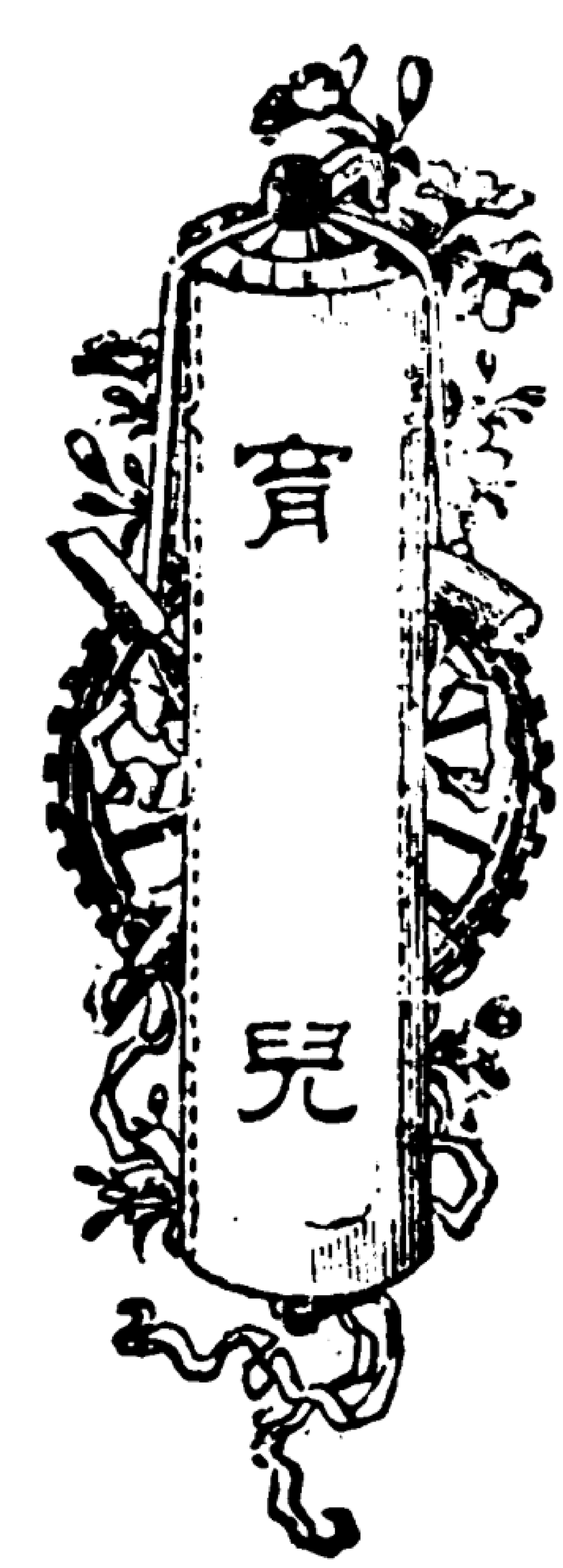
三、虎列刺

四、赤痢　であります、此兩者は何れも黴菌の作用であるから、病氣としては腸加多兒とは全く別なものでありますが、其起す症狀は似た樣で只劇しいばかりであります、あまり劇しき腹痛の結果失神する程になつたり、日に百回近くも便所に行たりする樣になつて、身體は綿の樣になり生命に關る事も往々あります。つい先年迄は隨分恐れられてコレラや赤痢に罹つた者は必ず死ぬ樣に思つて居ましたが、今では進歩して多くは助かる事となつて居ます、又追々之等の病の流行も少なくなつて來ました。

五、盲腸炎―盲腸周圍炎―蟲樣突起炎　之は盲腸及蟲狀突起の近傍に炎症が起るので、腹の右下の方で恐ろしい劇しい痛が起るのであります、今では外科的の病氣となつて居ます。

六、癌　殊に直腸癌が多い、癌腫が腸に出來るのだからたまりません、外科的の手術して直腸の上の方て切放して腹部に人工肛門を作り、直腸の部は全く切除するのでありますが、早くないと隨分難しい事であります。

七、腸閉塞　何かの工合から腸の一部が全く閉塞して仕舞ふので其結果吐糞病を起します、腸捻轉等も其一つであります、之れも直に外科的の手術をうけねばなりません。



胎毒

醫學博士　瀨川昌耆君講話

▲誤解せる胎毒　私が或る病家へ參りました時側へ來られた小兒さんを見ると頭部へベタ一面に腫物が出來て痂皮を冠つて居るやうな次第で御座います、尤も其時は其小兒さんが病氣だつたのではない病人は他の方でした處が其お宅の御老人が其小兒さんを

抱き乍ら「御覽下さい此子は胎毒でこの通り頭部に腫物が出來て居りますが、之れは治療しますと却つて惡いさうですネ、母の胎内から毒をもつてきたのですから出來る丈出來させなければなりません」と如何に腫物が殖へやうが癒しては惡いと云つて出來る儘に投遣つてある、私は此の談を伺つて夫れは大變なお考へ違ひですと云つて色々胎毒と云ふ事に就いてお咄し仕たことがありました

▲民間で云ふ胎毒　民間では胎毒と云ふ事に就き右の御老人のやうに大層誤解して居られます故其事をお咄し致して置きませう先づ俗間で胎毒と云ふのは小兒の頭部とか顏面とかへ皮膚病が出來たり股間とか腋下が爛れて遂ひに膿が出たりするとか眼が赤くなつて何時もジク／＼爛れて居るとか鼻へ腫物が出來て夫れが何時迄もたゞれて居るとか爾う云ふ皮膚病は總て之れを胎毒と稱へ、之れが容易に癒らぬのは即ち母の胎内に居るとき既に毒をもつて夫れから生れたことなれば却つて之れを癒しては宜しくないと斯くの如く世間では考へて居る、併し之れが抑も大なる誤解で決して小兒が母の胎内を出るとき斯んな毒をもつて來るものではない

▲先天性の梅毒　ケレども玆に一種の毒を持つた小兒が生れることがある夫れは即ち梅毒で御座います、デ先天性の梅毒を受けて居るとすれば大抵生後一週間か二週間目で徴候を發するもの、甚しきに至つては生れたとき既に此徴候の發して居るものですが斯の如き先天性の梅毒は我が國には割合に少ないのです

▲皮膚の弱い小兒　世間で云ふ胎毒とは母親の胎内を出る時毒を脊負つて來たのだから夫れが出來る丈出來なければ癒してならぬと民間では斯んな考へを抱いて居られるが既に之れが誤解である事は前にお咄し仕て置いた通りです、元來小兒は皮膚の軟弱い、抵抗の弱いもので一寸した外來の掀衝でも受け易い、其内で比較的皮膚の弱い體質をもつて生れた小兒に多く腫物の出來易いのです即ち外來の掀衝を頭

部へ受ければ其處へ傷が出來て遂に痂皮になるやうな譯です、夫れであるから此胎毒は必ず十人が十人出來るものでないことは良くお解りになりませう

▲食物の迷信　外來の刺激で皮膚の變化が起り傷にでもなると其變化が容易に癒りません、夫れ故乳兒に斯んな腫物が出來ると先づ母親の食物に非常な注意をして、何が毒だ之れが毒だ腫物の毒になる食物を喰べれば夫れが乳汁へ出て來て容易に治療らぬと斯んな考へを抱かれます、又食物を喰べる時代の小兒になると「此の食物は腫物の毒だ、那れも毒だ」と非常に食物を嚴重にしますが何も之れが世間で云ふ程決して嚴重にすべきものでない。餘り世間では食物の禁忌を嚴重に仕過ぎます

▲食物と病氣　總て食物は體內に於て榮養になる部分は分解され營養にならぬ部分は體外へ排泄されて仕舞ふのですから、食物か直接に病に影響を及ぼすものでは無い、故に民間で云ふ胎毒に直接惡いと云ふ食物のあるべき筈はないのです、結局之は食物に對する一種の迷信と信ずるのであります

▲香料と一般の小兒食物　併し斯んな事の例があります小兒に餘り多く香料を與へると夫れが爲め局部に充血を起して痛みを起さぬとも限りません、去れど小兒は香料を好むものではない、即ち酒とか唐辛子芥子のやうなものは一般の小兒は食べません故に腫物の出來て居る小兒とて普通一般の小兒食物を與へて一向差支にならぬから、左う嚴重に食物を禁忌するには及びません

▲胎毒と實例　民間では小兒病に胎毒と云ふ誤解された名稱が附けてある此胎毒の患者を連れて參りまして「御覽の通り此兒は頭部から面部へかけて腫物が出來て居りますが、ドーモ胎毒ですから治癒しては惡いと思ひ、出來る丈出來させて放棄て置くと段々增る計り、尤も喰べ物は矢釜しく嚴重に注意をいたして此兒にも毒なものや性分の強いものは一切喰べさせません、夫れに未だ私の乳汁を幾分か飲ませますから私迄も食物は氣を附けて居りましたケレ

ども何うも段々日増しに容態が惡くなるやうに見えますから治癒しては惡いと申しますが一ッ御診察を願ひたい」と斯う云ふ事を申して診斷を受けに參りますものが隨分澤山御座います

▲食禁の弊　胎毒であるからとて腫物を治癒さないで置くのは非常な誤解である小兒の皮膚に弱いものは抵抗力が弱いから隨つて刺激を受け易いので腫物も出來安い皮膚の强い弱いは其小兒の持つて生れた體質ですから之には據どころない事ですが胎毒であるからとて直ぐに治癒さぬのは大間違ひなことで此事は前にも詳しく述べて置いた通りです、次に所謂胎毒と食物の關係ですが之れが非常な誤解で小兒の食物から親の食物（まだ乳汁を飲む子供に對して）に迄左程嚴重な注意を拂ふ必要がない、斯く迄食禁を迷信して折角身體の滋養になるべき食物であり乍ら之れも惡い那れも惡いと俗間で云ふやうな食禁をしたなら却つて腫物は早く治らないのです、凡て病氣には適當なる滋養物を取らなければならぬのに、世間には夫れを反對に考へて、滋養になるべき食物を却つて胎毒に毒だと云つて居ます誤解もまた甚しいではありませんか、故に小兒に適當な滋養なら性分が强いの、毒だのと云はずに安心して喰べさせる事をお勸めいたすのです夫れから母親の食物が母乳に影響する事など決して懸念に及ばぬ事と斯う御承知を願ひたいのです

▲內攻と云ふ事　小兒の胎毒とは何か一種の毒を母親の胎內から受けて產れでも仕たやうに考へられて居る此事が旣に誤解なるは前に詳しく述べて置いた通りで即ち黴毒の外は母の胎內から持つて生れた毒は無いと云ふ事も良くお解りになつたらうと信ずる、然るに茲に尙胎毒と云へる語弊に伴はれて內攻と云ふ事を世間で申されます「胎毒を癒すと內攻するとか」或は「胎毒が內攻した爲め愛兒を亡した」とか斯ういふ言葉は屢々耳にされるでありませう、爾うして內攻する事を俗間では何れ程恐れて居るでせうか、併し內攻に就いては又一ッの誤解があるの

で夫れをお咄し仕て置く必要があります

▲胎毒の内攻　世間で云ふ胎毒とは孰れの病症を問はず小兒の外部へ出來た皮膚病腫物の類は總て之れを胎毒だと云つて居る、併し胎毒と稱するものゝ中には色々の病症があるので、醫師の診斷に依つて單純な皮膚病と認められたものも矢張胎毒だと稱せられ、癒しては往かぬと云つて廣がる丈廣がらして置く、之れが即ち胎毒の小兒を取扱ふに就いて世間一般の母親の考へです、ソコで斯くの如き皮膚病に冒された小兒に多くあるのは時によると全身に水腫を起して來るが、斯く水腫を起して來ると世間では夫れを胎毒が内攻したと云ふのでつまり外の病が内部へ侵入して一種異つた病を引き起すといふ意味なのです

▲内攻は全く誤解なり　ナゼ水腫を起すと胎毒が内攻したと謂ふのですか其譯をお咄しすれば先づ斯うであります、一體斯くの如く水腫を起し腫れを生ずると今迄ジクジク仕て居た濕瘡の膿も乾くし、痂皮も出來て乾燥して皮膚病は癒つて仕舞う故に胎毒が癒つたのは其胎毒が内攻して仕舞い水腫が出來て來た事と斯く素人は考へて居られます之れが醫師から見ると全く間違つた反對の考へで實際は水腫を起して爲めに皮膚病は一時癒つたので水腫と小兒の皮膚病とは、常に斯る關係を有して居るのを素人の方は知らずに居られたのであります



質疑

○問　廿八歲の婦人昨年四月臺灣に參りてより月經更になし東京に居り候節は有之候につき右療法御敎示被下度候。

質問者　會員某女

○答　姙娠又は授乳期間の外通經なきは病的にして種種の疾病の一徴候となりて現はるゝものなれば之

れが原因をなす處の疾病を治癒せしむる時は自ら恢復すべし「ヒステリー」等には往々見る所にして身體强健ならざる婦人は氣候の劇變にも多少影響を及ぼし子宮内膜炎等生殖器に關する疾病あれば勿論攝生を守りて坐浴等を時々行ふは治療上の一助たるべし尚醫師の診療を請ふべし

○問　四十四歳の婦人面部額に「ナマズ」樣のもの數年前より出來其節塗抹藥を用ゆるも更に効驗なし何卒良き療法を御命示の程願上候

尾の道市　會員　某

○答　面部の皮膚病は甚だ多く從て診察せざれば病性を確知する能はず治療の方針も推知するに由なし「ナマズ」とすれば左の藥液を試みらるべし

撒里矢兒酸　一、〇五　醋酸　三滴
亞爾個保兒　一五、〇

右調合一日二回位毛筆にて塗布すべし



雜報

○兩博士銅像除幕式

ベルツ、スクリッパ兩博士の銅像除幕式は豫記の如く本月四日午後正三時に執行したり位置は醫科大學の中央なる丘上に東面し内外科の病院を眼下にせる誠に恰好の場所なり此日拭ふが如く晴れたる空に大小無數の日獨兩國旗美しく運動場には約二百人を容るゝ天幕二個を張り渡し式後の宴會場に充てたり像は高さ數丈の柱に幕を繞して包みたるが斯くて獨逸大使以下府下各病院長、醫員等來賓悉く參着すれば銅像建設事務主任清水彦五郎氏式を始むる旨を告げ青山創立委員長は銅像建設を企畫せし以來の顛末を報告し次で濱尾大學總長は幕の側に近づき一揖の後幕に手を觸れたる咄嗟幕は落ちて生けるが如

き二個の銅像は此に現はれたり右はスクリッパ氏にて左はベルツ氏なり何れも赤色花崗石の臺上に据し半身像にてスクリッパ氏は「フロックコート」ベルツ氏は脊廣なり濱尾總長は二個の像と衆賓とを斜めにして立ち恭しく一篇の式辭を朗讀したるが頗る長文にて先づ兩博士の來朝　在職　年月日及び擔任學科等を數へ次に其の功績の偉大無比なる旨を縷述し最後に左の如き辭ありたり

今や二博士の敎を受けたる者並に朋友緣故ある者等胥謀り二博士の肖像を造り此に二基を双建し其偉績を顯彰し仰慕の情を表すベルツ博士は幸に郷國に健在し復た來朝して之を親視せらるゝの機會あるべきを樂しむと雖もスクリッパ博士は不幸にして三年前長逝せられ生前此擧あるを聞知し大に喜ばれたりと聞きしが遂に之を目睹せらるゝに至らざるを憾む此肖像二基は久遠に本大學に保存し二博士の盛名と共に永く朽ちざるべし聊か所懐を陳べて除幕の式辭とす

式辭了りて次に獨逸大使ムム男一場の演說をなし以て此に式を了り一同別席の宴會場に入りしが式の結了と同時に獨逸にあるベルツ氏に向け氏の銅像除幕の盛典を擧げ了りたる旨の電報を發し五時頃散會せり來會者は前記の外獨逸大使館書記、譯書、海陸軍武官、大學敎授、評議員、文部大臣、府下各病院長及び在住の醫師目下全國より內外科醫會の爲め出京中の醫師其他刀圭界に緣故ある人々數百名なりし猶スクリッパ氏未亡人安子は白襟紋付にて遺兒ヘンリー(十二)の手を引きて出席し終始伏目勝ちなりしが一同の眼は銅像の次に此の未亡人と少年とに集り居たり

○博覽會と衛生取締

警視廳は此程博覽會開期中旅店車夫等の旅客待遇に關する取締方法を議定したるが今又衛生に關し左の取締指示事項を定めたり

▲街路　(一)公共便所の充溢及其の淸潔狀態に注意する事(二)撒水の周到を期する事(三)傷病者の有無に注意する事(四)癩患者の徘徊に注意する事(五)街路の不潔、下水の停滯等に注意する事(六)店頭販賣の不良飲食物に注意する事(七)店頭販賣の飲食物に對する覆蓋の有無に注意する事(八)屎尿及塵

芥、汚泥の運搬に關する衛生に注意する事

▲宿屋　（一）家屋内外を清潔ならしむる事（二）寢具の白布被包の有無に注意する事白布被包は白襟を纏ふを以て足る（三）便所洗面所、浴場及流し下等を清潔ならしむる事（四）唾壺の配置及其消毒方法を完全ならしむる事（五）汚水の排除を完全ならしむる事（六）飲用及雜用水の良否に注意する事

▲貸座敷　宿屋取締の各項に準ずる外倘ほイルリガートルの設備を勸誘する事

▲引手茶屋、料理屋、飲食店、待合茶屋、遊船宿、貸席、芝居茶屋、角力茶屋は宿屋取締の各項中二を除き他の各項に準ずる事

▲理髪店　（一）唾壺の設備及其の消毒を完全ならしむる事（二）職業用の器具に對する消毒を勵行せしむる事（三）白布、手拭其他職業用の器具を清潔ならしむる事

▲劇場、寄席、觀物場　（一）便所を清潔ならしむる事（二）唾壺（灰吹を含む）の配置及其消毒を完全ならしむる事（三）客に供する座布團を清潔ならしむる事

▲鐵道停車場　（一）待合室、プラットホームに於ける唾壺の配置を周到ならしめ且其の消毒を勵行せしむる事（二）便所の清潔を保たしむる事（三）倉庫物置等に對し鼠族の驅除を繼續施行せしむる事（四）其の他構内を清潔ならしむる事

▲傳染病豫防　（一）ペスト有病地より來る襤褸其他屑物の注意を一層周密ならしむる事（二）檢疫醫又は檢疫委員をして死體檢案を勵行せしむる事（三）細民部落其他必要の地點に不斷巡査の檢病調査を行ふ事（四）宿屋其他公衆の來集を目的とする營業店にして不潔なりと認めたる場所ある時は特に清潔方法を行はしむる事（五）傳染病患者ありたるときは其處置を敏速にし且つ消毒方法等を一層勵行する事（六）一般に鼠族驅除を勵行する事

▲其他　（一）前各項の外飲食物其他の物品取締及勸工場、遊技場、碁會所、共進會、展覽會、圖

書館、新聞雜誌縱覽所、汽船發着所等に對する唾壺の配置に關しては凡て當該法令に從ひ之を勵行する事（二）此の際野犬撲殺を勵行する事（三）取締に從事する警察官吏に對し傷病者救護所及傷病者治療病院の所在を示し置く事

○家庭看護の早稽古

京橋築地三丁目築地女子小學校内に長谷川壽太郎、沼野孝太郎その他の人々に依りて設けられたる家庭看病法講習會は年々に好成績を擧げ實習する婦人連は遠きは市外より通ふ者も出來て何れも實驗上の講話多きを喜び居れるが四月よりは第百回の講習會を開き毎週月木の午後三時より五時までの時間にて三ヶ月講了の豫定とし三島、遠山兩醫學博士を始め林、沼野、川上、内田、樋口、鈴木の各醫師一般衛生及び看護法より眼科内科外科の一般並に妊娠分娩前後の攝養法その他解剖生理の大要までを講ずべしといふ講習料は全期間三圓なりといふ



大日本婦人衛生會記事

○大日本婦人衛生會總會及び春季懇親會

去月廿三日午後一時より麹町區永田町なる會長鍋島侯爵夫人邸に於て本會總會に兼ね春季懇親會を開きしが、當日は朝來の暴風雨も幸ひに晴れ上りしかば定刻より會員の續々入場するや相互の便宜を計り夫れ〳〵姓名を記したる徽章を一々入口の受付にて渡したり、此間に本會總裁東伏見宮妃周子殿下には美しき御洋裝にて御臺臨あらせられ暫時御休憩の後副會長濟尾夫人の御先導にて大廣間なる式場へ御用掛上野夫人を從へ入御、中央の椅子に御着席あらせらる、此時君が代の吹奏ありて總會を開き、鍋島會長は簡單なる式辭を述べ、次で會務の報告あり又別室に於て役員改選の投票を開くこと丶なりぬ、是にて總會の式を終り、繼て懇親會に移ると同時に喇

喨たる樂隊の奏樂あり、夫れより吉住滸子、小龜、小仙、佐藤ゆき子四名の寄附に係る杵屋小三郎門中の長唄賤機帶並に筑前琵琶、エビ一大神樂等の餘興ありて一旦休憩、隣室にて茶菓、葡萄酒、ビール、壽司(折詰め)等の饗應ありしが殊に長唄は大喝采を博せし後會長の御所望により尙ほ勸進帳の一曲を奏したり、當日は御庭園及び構造裝飾に善美を盡されたる洋館御殿の樓上樓下各室の拜觀を自由に任せられたるに會員一同は滿足を表し歡喜斜めならず、又來賓は土方伯林淸國公使夫人珍田外務次官夫人三浦博士(謹之助)土肥博士栗本博士橋本學士(左武郎)宮本仲其他朝野の紳士貴夫人令孃及び各新聞記者等にて無慮二百餘名の多きに上れる盛會なりしが各々歡を盡して和氣靄々の中に散會せられしは午後六時頃なりき

因に云、此日總裁殿下には御機嫌最と麗はしく各種の演奏に御滿足の體にて午後四時過る頃御歸邸あらせられたり

當日は鍋島會長濱尾副會長を始め幹事評議員の各夫人は夫れ〳〵諸種の斡旋に努められ殊に原胤昭氏並に同邸の御家令家扶以下諸氏の補助せられたるより萬事好都合なりしを爰に深謝す

此日鍋島會長より寄附せられたる葡萄酒及び種々の餅菓子煎餅杯の其處此處に配置されたる積み菓子を會員一同頂戴したり

○當日の寄附者芳名

一金五圓　濱尾夫人　　一金貳圓　羽田夫人
一金貳圓　松平夫人　　一金貳圓　高木夫人
一金貳圓　岡田夫人　　一金貳圓　長谷川夫人
一金貳圓　三宅夫人　　一金貳圓　三浦夫人

○本會の役員

本會總會に於て役員の改選を行ひしに投票の結果は從前の通り何れも再選となれり、唯だ評議員の補缺一名ありしが山口貞子夫人當選せられたり、依て役員の姓名を左に掲ぐ

役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

幹事（いろは順）鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
仝　三浦數子
評議員　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濵田拾子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　穗積歌子
仝　土肥多穗子

評議員　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　男爵夫人南部限子
仝　中濵芳子
仝　子爵夫人松井正子
仝　岸澄子
仝　三宅瀨子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

○大日本婦人衛生會現在會員數

一總計貳千〇參拾貳人

内譯

本會會員數　壹千貳百八拾貳人

内
贊成員　百六拾六人
終身會員　六拾六人
特別會員　百六拾八人
通常會員　八百八拾貳人

各支會會員數　七百五拾人

内
新潟支會　百四拾人
山形支會　七拾壹人
茨城支會　七拾壹人
宇都宮支會　貳百參拾六人
高崎支會　百八拾貳人
米澤支會　五拾人

○本會及支會の入會、退會者（明治三十九年度分）

一入會數四百十二名　内譯（本會　百十一名／支會　三百〇一名）

一退會數三百七十四名　内譯（本會　二百二十二名／支會　百五十二名）

一死亡數　九名　差引二十九名增加

○本會の例會數（自明治三十九年三月／至同　四拾年二月）

例會の講師姓名左の如し

三月　佐藤達次郎君　富士川游君
五月　新井古芳君　富士川游君
六月　西山信光君　富士川游君
十月　栗本庸勝君　富士川游君
十一月　遠山椿吉君　富士川游君
十二月　榊保三郎君　富士川游君
二月　佐藤得齋君　富士川游君

○本會收支決算報告書（自明治三十九年三月／至仝　四十年二月）

收入

一金五千四百七拾貳圓六拾參錢六厘

內譯

金貳千五百〇七圓拾壹錢六厘	前年度ヨリ越高
金貳千六百拾六圓七拾貳錢	會費
金貳百參拾圓參拾六錢	寄附金懇親會費　廣告料
金百拾八圓四拾四錢	預ケ金利子

支出

一金貳千六百五拾六圓七拾五錢五厘

內譯

金四百貳拾貳圓八拾錢	報酬及雜給
金六圓八拾九錢	備品費
金千參百四拾壹圓六拾四錢	圖書及印刷費
金貳拾九圓九拾錢	筆紙墨文具
金四圓參拾參錢	消耗品
金百五拾圓拾參錢	通信運搬費
金貳百七拾參圓九拾七錢五厘	集會費
金貳百六拾四圓	借家料
金貳拾圓八拾六錢	旅費
金百四拾圓貳拾參錢	雜費

收支差引殘

一金貳千八百拾五圓八拾八錢壹厘

內譯

金貳千參百圓	三井銀行預金
金參百八拾貳圓參拾四錢	東京府農工銀行京橋支店仝上
金六拾圓	借家敷金
金七拾參圓五拾四錢壹厘	手元有高

以上

●各支會の收支決算報告書は次號に讓る

新潟支會

●三月例會

去月十七日午後一時より新潟師範學校附屬小學校に於て當市婦人敎育會と聯合の上例會を開き出席者二十餘名講師及演題は左の如し

學問の力　新潟師範學校長　江口照造君

日本婦人の骨格に就て　長井千尋君

山形支會

●三月例會

去月九日午後一時より女子師範學校内に於て例會を開き出席者約五十餘名、坂口講師「寄生蟲に就て」の懇切なる講話あり、當日は馬淵會長を始め佐藤、館、津田、高木、關原、友田の各幹事出席されしが同四時頃散會せり

○宇都宮支會其後の講師及び賛成員の變更は左の如し

柴田長道君　望月寛一君　吉住保君
矢野政五郎君　黒須喬三九君　西尾伊抱君
紳野勇三郎君　田野邊政次郎君　長野榮三君
大久保守夫君　枝廣君　小澤達造君
島田富藏君　原温恭君　渡甚三郎君
渡邊常成君　櫻井十郎君

○本會入會者

○小石川飯島鶴子紹介
●麹町區平町十　特別會員　西園寺留子
○牛込増田せい子紹介
●小石川區新諏訪十　通常會員　森敬子
○廣島友近里子紹介
●廣島市上流川町廣島女學校内　通常會員　上早玉代子
●廣島縣豐田郡瀬戸田町　通常會員　野村ちせ子
●廣島縣安佐郡龜山村四日市　通常會員　梶川秀代子
●廣島縣安藝郡瀬戸島音戸町　通常會員　樫原梅子
●岡山縣京都郡行橋町　通常會員　草野律子
●廣島縣呉市入船通三三四、三上呉吉方　通常會員　谷口駒子
●廣島市上流川町廣島女學校内　通常會員　細川管子
○小石川駒木根ふじ子紹介
●小石川區下宮坂町十八番地村井方　通常會員　清家康子
○東京府下佐野きみ子紹介
●大坂市東區京橋三丁目　通常會員　近藤こま子
○赤坂矢部ふさ子紹介
●本郷區駒込西片町十、ろ六　通常會員　山岡信子
○事務所申込
●小石川區巣鴨病院内　通常會員　小池はる子
●北海道札幌區北八、東二、十九　通常會員　大井上ちかよ子
●芝區明舟町十九　通常會員　細井しま子
○日本橋高橋孝子紹介
●淺草區田町一ノ四、町田方　通常會員　久田あい子
○麹町青戸咲子紹介
●牛込區矢來町三、中ノ丸二十六號　通常會員　長谷川まん子
○天利いし子紹介
通常會員　木村きく子

○高崎支會入會者

○山形支會入、退會者

○幹事高木かう子紹介

●山形市新築　通常會員　竹本こう子

●通常會員松村いく子退會せり

○宇都宮支會會員變更

●通常會員改メ　特別會員　深野咲尾子

○轉居

●牛込區大久保余丁町卅一へ　増田常子

●福岡市外東公園内へ　久保よりえ子

●淺草區黒船町十六へ　中島四津子

●神奈川中郡大磯盛町へ　川村春子

●麻布櫻田町九〇、太田市方へ　木部ます子

●府下荏原郡入新井村字不入斗四十二へ　川口直子

●高知市帶屋町郡役所前へ　松岡靜子

●韓國京城駐箚軍々醫部官舍へ　田中直子

●牛込區南榎町四七へ　藤井節々子

●麻布區東町二十二へ　玉木數子

●府下荏原郡大森木間山第三號へ　西喜代子

●長崎縣南松浦郡福江、楢林方へ　松本友代子

●滿洲大連伊賀町へ　久保田不二子

●横濱市太田町二〇八五へ　駒木根ふじ子

●小石川區白山御殿町一〇九へ　飯島つる子

○寄贈交換雜誌

●日本赤十字　京橋區築地二ノ廿一　日本赤十字發行所

●日本婦人　府下豊多摩郡澁谷村字常盤松御料地内　帝國婦人協會

●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衛生會

●日本の家庭　神田區神保町二　同文館

●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會

●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社

●東京市教育會雜誌　東京市役所内　東京市教育會

●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品卸商事務所

●同仁　神田區一ツ橋通町廿一　同仁雜誌社

●治療藥報　日本橋區南茅場町二　治療藥報社

●女醫界　牛込區市谷河田町　東京女醫學校

●大阪婦女新聞　大阪西區江戸堀南通一ノ十四　大阪婦女新聞社

●家庭新聞　熊本市内坪井町一五八　家庭新聞社

●家庭の栞　新潟縣女子師範學校内　新潟縣女子教育會

●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會

●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會

●通俗衛生　大阪西區土佐堀三ノ廿九　大阪私立衛生會

●なでしこ　麹町區下二番町卅七　大日本女學會

●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷六五　牟婁新聞社

●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會

●藥石新報　大阪西區江戸堀下通三ノ卅六　藥石新報社

●藥業時報　神田區鍛冶町廿一　藥業時報社

●婦人世界	大阪南區末吉橋通四ノ六十三	振華婦人會
●婦女新聞	牛込區東五軒町四十一	婦女新聞社
●國家醫學會雜誌	本郷區元富士町一	國家醫學會雜誌發行所
●工手ノ母	大阪北區西野田新家四ノ町番外三二五	工手の母新聞社
●交通世界	埼玉縣浦和町三九三五	交通協會
●越佐教育雜誌	新潟市東仲通一番丁二一七	越佐教育雜誌社
●廣島衛生醫事月報	廣島市猫屋町	廣島衛生醫事月報社
●英生	神田區駿河臺北甲賀町十	東西社
●衛生新報	和歌山市小松原通三ノ一	衛生新報社
●衛生新報	下谷池ノ端仲町十九	衛生新報社
●愛國婦人	麹町飯田町一丁目	愛國婦人發行所
●草樂新聞	大阪南區心齋橋筋二ノ百七	草樂新聞社
●產科婦人雜誌	日本橋區濱町三ノ七	日本產科婦協會
●埼玉衛生新誌	埼玉縣北足立郡浦和町二三五	埼玉衛生新誌社
●教育公報	神田區一ッ橋通町	帝國教育會
●明治の家庭	牛込區納戸町五	明治の家庭社
●兒童教育	神田區末廣町十	兒童新聞社
●神經學雜誌	小石川區駕籠町東京醫科大學精神病學教室內	日本神經學會
●大日本婦人教育會雜誌	麹町區永田町一ノ十九	大日本婦人教育會
●新公論	本郷區東片町一二	新公論社

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり ●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢 ●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし ●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す ●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす ●第六條支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會にて公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす ●第七條支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし ●第八條毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし ●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合にては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の實助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす ●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし ●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

明治廿九年四月創立

新潟支會

私立大日本婦人衞生會米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衞生會米澤支會と稱し衞生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地 猪股方に置く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く 其任期は各一年とす

第四條　毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄) 講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ 事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出へし 但し已納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種として 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす 但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め 一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條　會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは 役員協議の上特待員又は贊成員となすへし

第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條　特に支會則に掲けさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衞生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必や衞生と相竢ちて而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に跟じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衞生の事項をして益研究し改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衞生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續　入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むると●男子にして本支會の趣旨を贊成する通常者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるとを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ケ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衞生上の講義演說又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●玆に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黒塗箱入 送費九錢）
六十錢（桐箱入 送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤淸之丞

印刷者　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎

明治四十年四月十六日印刷
仝年四月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百九號（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場